



2027学群案内

筑波大学 医学群

医学類 · 看護学類 · 医療科学類

Medicine

Nursing

Medical Sciences



CONTENTS

医学群 1

医学類

- 教育 2
- 卒業後の進路 4
- 在校生・卒業生からのメッセージ 6

看護学類

- 教育 8
- 卒業後の進路 10
- 在校生・卒業生からのメッセージ 12

医療科学類

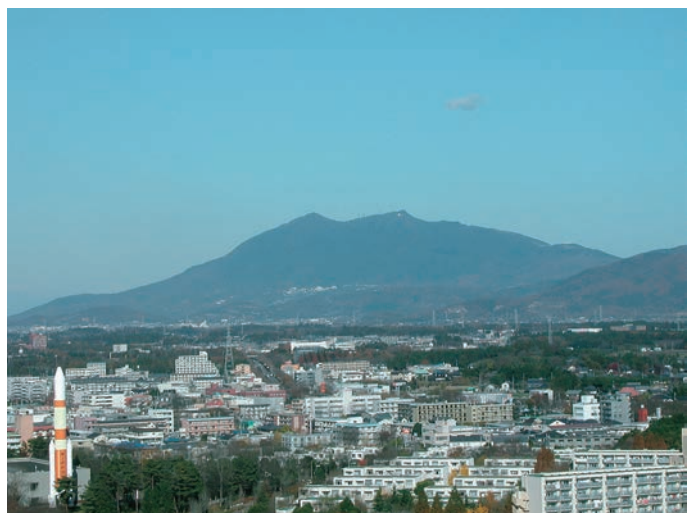
- 教育 14
- 卒業後の進路 16
- 在校生・卒業生からのメッセージ 18

キャンパスライフ 20

筑波大学における医学研究分野 22

FAQ 28

入学試験案内 30



医学類
College of Medicine

筑波大学
医学群

看護学類
College of Nursing

医療科学類
College of Medical Sciences



医学群は医学に関する学問分野の教育を担当する3つの学類(医学類・看護学類・医療科学類)で構成されます。いずれも病気の予防、診断・治療、看護を目指す医療者と医学研究者の育成を目的としています。

医療と医学研究は、個人や社会にとって最善の治療や解決策となるものを探り続けねばなりません。医学群の教育方針は、様々な問題に多様な考え方で適切に対応できるように、「自分で問題を考えて、解決する力と方法を身に付けていく」ことに力点を置いています。

医学類では6年間、看護学類、医療科学類では4年間、一般教育から専門分野まで幅広い学問分野にわたって、一貫教育を行います。

Medicine

医学類



新しい医学教育

最近の医学のめざましい進歩と医療へのニーズの変化に伴い、医学生が学習すべきものが変わってきました。たとえ最新の知識を詰め込んで卒業したとしても、そのままでは日進月歩の医学と医療の世界では取り残されてしまいます。未知の問題を解決する能力を獲得し、かつ卒業後も自己学習・自己啓発を続ける能力を養うことに教育の重点を置いています。

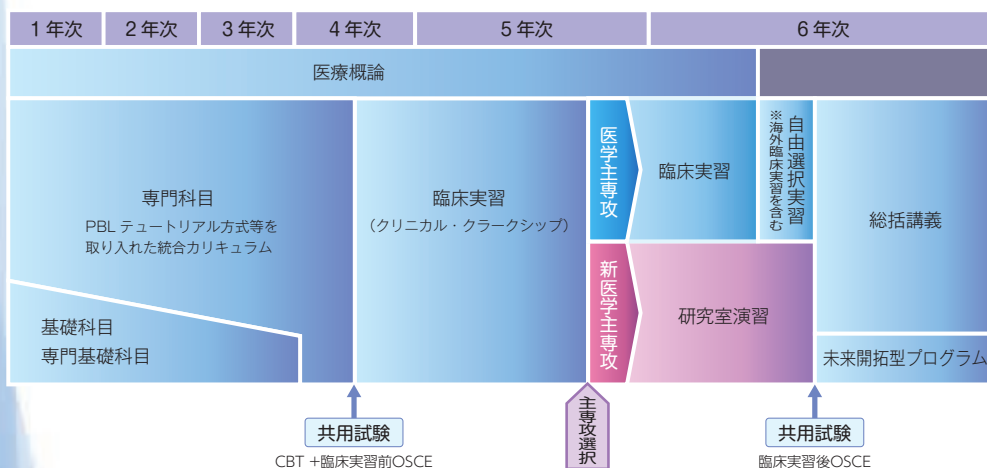
さらに、医師には医学知識のみではなく、患者さんの気持ちに配慮して良好な関係を築ける豊かな人間性が求められています。医学類では、知識・技能・態度教育のバランスを重視してカリキュラムを組んでいます。

優れた医療技術のみならず、しっかりしたコミュニケーション能力に裏打ちされた全人的対応のできるグローバルスタンダードにのっつた“良き医療者”、さらに世界レベルの研究者を養成することをコンピテンシーに掲げています。

■カリキュラム概要

筑波大学は開学以来、様々な学問分野の講義・実習を組み合わせた「統合カリキュラム」を取り入れ、先進的な独自の6年間一貫のカリキュラムを誇ってきました。様々な医学・医療の現場を体験し、問題点を自ら考え分析し解決する能力を養うため、1～3年次は、少人数グループで課題を討論する問題解決型(PBL: Problem Based Learning) テュートリアルなどの能動的な学習方式を主体として、4～5年次には、医療チームの一員として長期間の臨床実習を行います。6年次には大学内外の施設(海外も含む)において、自分の興味のある分野の実習を行い、自分のキャリアを考えながら学んでいくプログラムとなっています。

医学類カリキュラム



①医学の基礎（1～3年次）

生命科学やヒトの構造と機能の基礎、ヒトの正常と病態について学びます。学習形式は「問題解決型テュートリアル」を中心としており、シナリオ(患者さんのストーリー)を用いて、ナビゲーター役の教員のアドバイスを受けながら、少人数グループでの討議を行います。小グループ討論の前後には、学習の鍵となる講義・実習もなされます。具体的には、1年次「生化学」「組織学」「分子細胞生物学」など基礎医学中心のコース、2～3年次「消化系」「循環系」など臨床医学を中心とするコース、「医療と環境」など社会医学を中心とするコースなどから構成され、これら全てが基礎・臨床・社会医学の分野が統合されて組み立てられています。1年次から臨床技能教育が始まります。医療面接の技法を学ぶために、コミュニケーション技法の実習があります。基本的臨床技能の習得のために、教育用シミュレーターなどを用意した臨床技能実習室(スキルスラボ)を活用できます。また、一般教養科目は自由に選択できます。

臨床実習に進む直前に全国共通の共用試験があります。知識を問うCBT(Computer-Based Testing)と技能・態度を問う客観的臨床能力試験(OSCE: Objective Structured Clinical Examination)からなります。これらを受けて、臨床実習前の学習が十分かどうか確認します。この試験は、臨床実習に進むために重要な関所となります。

②診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)（4～6年次）

4年次春学期の臨床実習前の演習(診察法・診療録の書き方など)において診療チームの一員として臨床実習に参加できるようになるために必要な知識や技術について学習し、秋から6年春までの1年半をかけて臨床実習を行います。学生は診療チームの一員として、患者さんを受け持ち、実際の診療を通して、医療面接、診察法、基本的な手技、医師としての適切な態度などを確実に身につけます。さらに、単に「病氣」を学ぶのではなく、患者さんの思い、悩みを含めて問題をとらえ、他の医療スタッフと協力しあいながら、問題を多面的に解決する能力を身につけます。5年次後半では、長期の院外実習があり、地域の病院・診療所などにおいて大学病院とは異なる住民に近い医療現場で学ぶことができます。

③自由選択実習（6年次）

各自の希望により、大学内外の施設(病院、クリニックなど)、海外の病院実習、研究室など完全な選択制で実習を行うことができます。将来の進路を決定する手がかりになる貴重な機会となっています。

④医療概論（1～6年次）

医師に求められる臨床能力について、医療倫理、チーム医療、ヘルスプロモーション、医師患者関係などの臓器別・症候別の枠組みでは修得が難しい領域について体系的に学ぶことを目的として、1～6年次を通じて設置されています。入学直後の時期に行われる外来患者さんの付き添い実習の他、2年次の「在宅ケアコース」、3年次の「地域における健康教育」など、この多くが「体験型」のプログラムとなっていることが特徴です。

⑤研究室演習・新医学主専攻(選択)

放課後や長期休暇を活用して、興味のある分野の研究室で教員のアドバイスを受けながら、学生時代から最先端の医学研究を行うことができます。その延長で5年次後半・6年次に医学研究者を養成するコースである「新医学主専攻」を選択して、将来へつなげる道が用意されています。

■充実した教育設備

学生の自主的な学習を促すために、医学図書館は夜も開かれている他、全てのセミナー室にはネット環境が整備されており、e-learningシステムを活用して学生が必要な時に、病理組織標本などにアクセスして自習できます。またスキルスラボには、身体診察や救急蘇生を練習するためのモデルが多数整備されています。



白衣授与式



個人防護具着脱実習

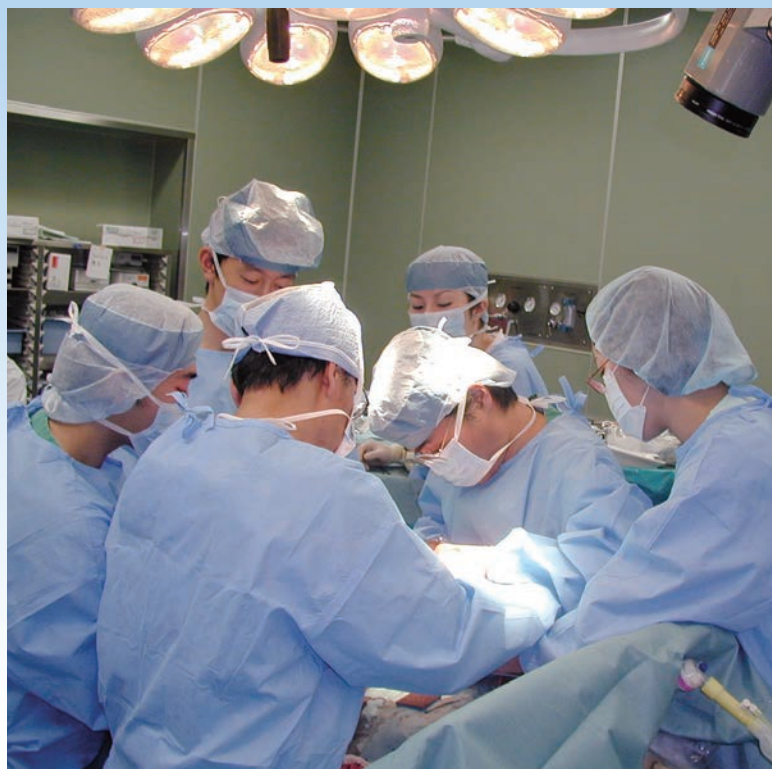


体験から学ぶ～高齢者・妊婦体験

卒業後の進路

取得資格

医学類の学生は、卒業時に学士(医学)の学位と医師国家試験の受験資格を得ます。医師国家試験を2月に受験、3月末に合格発表となり、4月から研修医として働くことになります。筑波大学医学類は例年医師国家試験の合格率が最も高い大学のひとつとして知られており、開学以来一貫して全国的に高く評価されています。2年間の卒後臨床研修は臨床医として働くために必修となっており、医師臨床研修



マッチング協議会のマッチング制度を利用して研修病院を決定します。その後は、多くの場合は専門領域の研修を続け、各種専門医資格の取得や、大学院に入って博士(医学)の学位取得を目指して日々研鑽を積んでいきます。筑波大学の医学類の卒業生の中で、筑波大学大学院に進学して博士(医学)の学位を取得する人はおよそ3割です。臨床医として働くのには学位の取得は必ずしも重要ではありませんが、医師として働くとともに教育に携わったり、研究を行ったり、一人の医学研究者や科学者として高度な思考を深めていくために学位取得は必ず役に立ちます。



臨床医

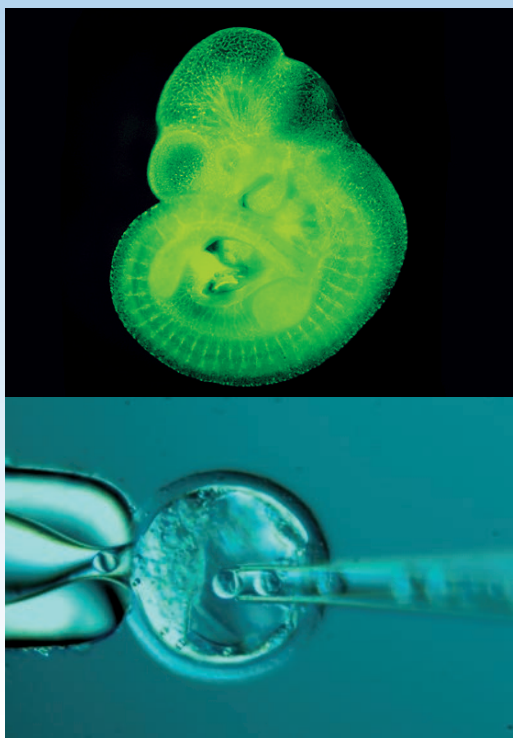
卒業生の多くは、本学附属病院をはじめ全国の研修病院で研修を受け、臨床医としての道を歩みます。本学附属病院では、研修医マッチングにおいて全国有数の研修医が集まる施設になっています。

当院では、本学教員が地域医療の第一線で指導に当たる地域医療教育センター・ステーション制度を活用し、附属病院・市中病院の双方のメリットを取り入れた先進的なプログラムのもとで充実した研修を受けられるように整備されています。2018年度から始まった新しい専門医制度にも十分対応しており、質の高い研修プログラムの下でそれぞれの領域の専門医を取得して、キャリアを重ねていくことができます。

研究者

基礎医学・臨床医学・社会医学それぞれの最先端の研究をめざす卒業生は、卒業直後あるいは臨床研修後に大学院に進学するのが一般的です。筑波大学大学院博士課程 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 (<https://www.chs.tsukuba.ac.jp/>) では、恵まれた環境で自ら研究を行うことにより、専門知識と高度な研究技術を習得することができます。

また、総合大学の特徴を活かし、神経科学やスポーツ医学などの広い範囲にわたる研究が可能です。医療はまだ不完全であり、新たな医療技術の確立を究極の目的とした医学研究は、現在病める患者の診療にあたる臨床医学とともに医学の重要な一分野となっています。大学院での研究は、医学の進歩をリードする先進的なもので、国際的に高い評価を受けている研究がたくさんあります。博士課程を修了し論文審査に合格すると博士(医学)の学位を得ることができます。



行政官

医療・保健・福祉に携わる行政官として、厚生労働省や都道府県の保健福祉部などに進む卒業生が増えています。国内のみならずWHOなどの国際行政官として活躍している卒業生や、国際医療協力の第一線で貢献している卒業生もいます。



妊婦検診(ユニセフ東京事務所代表 平林国彦氏(5回生)を通じ、ユニセフインド事務所より提供)

教育者

卒業生のうち、2025年現在約230名の卒業生が母校の教員として在籍し、後進の指導に当たっています。医学群の独創的なカリキュラムで学んだ経験を活かし、優れた医師の養成のために大きな役割を果たしています。また、筑波大学のみならず、国内外の大学の教員になっている卒業生も多く、各方面から高い評価を受けています。



母校での授業



筑波大学外科医による手術デモに見入るチョーライ病院レジデント

在校生・卒業生からのメッセージ



宮川 凜胡さん

4年生

The British School Quito
出身

実家を離れ、つくば市で暮らし始めてから早いもので4年が経とうとしています。筑波大学は、実家から通う学生も一定数いますが、同時に多くの学生が大学周辺で一人暮らしをしています。当初は親に心配もかけたかもしれませんが、実際に生活を始めてみると意外にも快適で、すぐにこの土地に馴染むことができました。学業はもちろん、部活動などを通じて同学年はもとより先輩や後輩とも自然に繋がりが生まれました。放課後に友人の部屋に集まって夕食を囲んだり、テスト前に一緒に勉強する時間は、一人暮らしの寂しさを感じないだけでなく、豊かな人間関係を育む貴重な機会となっています。また、周囲に同じ目標を持つ仲間が常にいることで、互いに刺激を受けながら自然と勉強に向き合える雰囲気を作られている点も、本学の大きな魅力だと感じています。

本学のカリキュラムの魅力は、早い段階から医療現場に触れる機会が豊富に用意されている点です。早い時期から「医師になる」という自覚を持てるだけでなく、単に知識を一方的に受容するのではない学びが定着しています。自ら主体的に学んだ内容を発表するアウトプット型の学習や、グループでの学習・話し合いを通じて課題解決を模索する機会が多いのも特徴です。自ら課題を見つけ出し、仲間と議論を重ねるプロセスを繰り返す経験は、将来医師として直面するであろう未知の課題に対しても、柔軟に学び続ける姿勢を養っていると実感しています。

現在、私たちはこれから始まる病院での実習に向けて、これまで以上に深く、臨床で活かせる医学的な知識を身に付けている最中です。覚えることは多く大変な面もありますが、日々の学びが実際の医療につながっていく実感を持ちながら、非常に充実した毎日を過ごしています。学内では、すでに白衣に袖を通し、病院で臨床経験を積んでいる先輩たちの姿をよく見かけます。専門的な知識を手に、現場でイキイキと活動されている先輩方はとても頼もしく、私自身もこれから始まる実習が本当に楽しみです。

部活動でのリフレッシュや仲間づくりを含め、ここでの生活は一人の人間としての成長を支えてくれています。つくばという、静かで落ち着いた環境での暮らしは非常に安心感があります。ここで得た知識と仲間、そして自律的な学習姿勢を糧に、残りの学生生活もさらに精進していきたいと考えています。将来、医師を目指す皆さんも、ぜひこの一歩を踏み出してみてください。



森田 拓海さん

4年生

埼玉県立
浦和高等学校出身

筑波大学医学類には、研究環境の充実や活発な課外活動、広大なキャンパスでの生活など、多くの魅力があります。一方で、大学生活が理想だけで満たされるわけではありません。思うようにいかないことや、慣れない環境に戸惑うこともあります。私自身、筑波大学の特徴であるPBLテュートリアルやケア・コロキウムに最初は苦労しました。しかし、そうした経験も含めて、自分の学び方や他者との関わり方を見つめ直す貴重な機会になったと感じています。

筑波大学医学類の大きな魅力は、「自ら求める人に応えてくれる環境」にあると思います。主体的に動けば、それを支えてくれる人や機会に出会うことができます。医学の学びは試験の点数だけで測れるものではなく、将来、患者さんや周囲の人にどのような価値を提供できるかが重要です。大学生活の中には、自分の努力が誰かの支えになるような経験が数多くあります。そうした経験を通じて、医療者として大切な視点が少しずつ育まれていくのだと感じています。

また、筑波大学には優れた指導者が多く、学生一人ひとりの可能性に目を向けてくださいます。知識の量だけでなく、これからどれだけ成長できるかという点を大切にしている環境です。その中で自分の未熟さを実感することもあります。同時に、より高い目標に挑戦したいという意欲も引き出されます。

決して楽な道ではありませんが、自ら考え、行動し、成長していきたいと考える人にとって、筑波大学医学類は非常に魅力的な環境だと思います。



速見 千春さん
6年生
私立
四天王寺高等学校出身

これまでの大学生活を振り返り、改めて筑波大学で学べたことのありがたみを実感しています。座学でインプットした医学的な知識をPBL (Problem Based Learning)やコアタイムを通して深掘りしていくことで、自ら問いを立ててその答えを探していく習慣が自然と身につきました。2年弱に渡るクリニカル・クラークシップ(参加型臨床実習)では、高度な医療が大学病院で実践されている様子を間近で見ることができるだけでなく、地域の市中病院やクリニックにも足を運ぶことで大学病院との役割の違いを肌で感じることができました。診察技術や患者さんへの接し方など、望ましい医師になるための心の教育も重視されており、実際の臨床現場で患者さんと向き合う中で、医療は知識だけでは成り立たないことを学びました。このように「医師としての素養」が自然と身に付く環境のおかげで自身の目指す医師像が次第に明確になり、学びへの意欲も一層高まってきました。

また、希望すれば基礎研究に触れたり海外の臨床実習に参加したりする機会があり、中には学会発表や論文投稿に挑戦する人もいました。こうした優秀で意欲的な仲間たちと互いに刺激を受けながら成長できる環境も大きな魅力の1つです。そして、学生のありとあらゆる“挑戦したい!”に様々な形で応えようとしてくださるだけでなく、ときには学生生活にも気を配ってくださる熱心な先生方にも恵まれています。

そして、私が筑波大学を志望した大きな理由の1つでもあります。総合大学であり且つほとんどの学群が1つのキャンパスにまとまっていることが本学の大きな強みの1つであると思っています。講義や課外活動を通して医学以外の分野の学生とも容易に交流することができるので、多様な価値観に触れ視野を広げられたことは、今後の医師人生においても大きな財産になると感じています。

筑波大学は、自ら考え行動できる医師へと成長できる場所です。これから医学を志す皆さんもきっとかけがえのない時間を過ごせるはず。ぜひ、自分の可能性を信じて挑戦してみてください。



奥脇 一さん
2013年度卒業
筑波大学附属病院
小児内科

筑波大学附属病院の小児内科の奥脇と申します。つくばエクスプレスが開通したのをきっかけに、地元の千葉県柏市から近い大学ということで筑波大学を目指し、医学類に入学しました。大学生活は医学の勉強だけでなく、バレーボールに打ち込んだ6年間で、充実した学生生活を送ることができました。同級生だけでなく、先輩・後輩たちとのつながりは卒業してからも続いており、今でもかけがえのないものと感じています。

医師としての専門を小児科に決めたのは学生実習での経験からでした。学生実習で小児科をまわったときに、入院している子供たちが病院で学校の宿題をするといったような日常生活を垣間見る瞬間がありました。そして、そんな子供たちに寄り添う医療をしている小児科の先生たちの姿を見て、病気だけでなく患者さんと向き合うことの大切さを学び、小児科医への道を選びました。筑波大学附属病院小児科での後期研修では、臨床だけでなく、海外学会でのポスター発表、アメリカのPICUへの見学などといった、幅広い視野を持たせていただけた素晴らしい研修でした。小児科医となって診察していく中で、重症な病気の治療を集中治療室で受ける子供たちを診察する経験をきっかけに、子供の集中治療を専門にしたいと思い、国内有数の小児病院へ研修に行き、2022年からは、筑波大学附属病院の小児集中治療チームの立ち上げメンバーの一員として、茨城県の重症な子供たちの診療に尽力しています。

つくばは様々な分野の学生、国内外から集まる研究者の人たちも多く住んでおり、多様性のある魅力的な街です。そこにある筑波大学には自分のやりたいことに打ち込むことができる素晴らしい環境があります。今の自分があるのは、筑波大学での様々な方との出会いがあったからだと思っています。多くのことを学び、経験できる筑波大学へぜひお待ちしております。



井上 貴昭さん
1993年度卒業
筑波大学医学医療系教授
(救急・集中治療医学)

筑波大学医学医療系救急・集中治療医学教授を務めております井上貴昭と申します。自身は生まれも育ちも関西人であり、田舎の兵庫県立加古川東高出身であるため、入学試験まで大阪より東に出たことがない典型的な地方出身者でした。行くことは叶わなかったのですが、高校2年時に開催されたつくば万博に憧れ、恋い焦がれて筑波大学に入学しました。学生時代は、初めて触れる医学の勉強の面白さと大変さを痛感しつつ、6年間どっぷり準硬式野球部員として、諸先輩と同僚、後輩に大変恵まれた学生生活を送りました。今振り返っても、勉強にも、運動にも、これほど恵まれた環境はない大学であったと大変感謝しています。

自分は、卒後は医師として究極の診断力、手技力、決断力を養える領域としての救急医学に魅せられ、その道を極めるため、つくばを離れて国内有数の救急医学講座に入局しました。主要関連施設勤務、海外留学等を経て、救急医としての腕を磨き、2016年より母校の救急・集中治療部門の責任者として再び筑波大学に戻る機会を得ました。

現在は、自身が様々な施設で学んだ第一線の技を後輩に伝えるべく、学内の救急・集中治療体制の大幅な変革を実施しています。日本救急医学学会指導施設認定、全国42番目、茨城県内では初の高度救命救急センターの認可、防災ヘリを用いたピックアップ型ドクターヘリ体制の構築、など県内のみならず、国内外からも注目を集める第一線の救急・集中治療施設として、当院は年々その存在意義が高まっています。2016年より将来の救急医を目指す若手専攻医21名に恵まれ、徐々に県内に救急医が増えてきました。2020年の新型コロナウイルス感染拡大の際には、ダイヤモンドプリンセス号の乗客救出・搬送のためのDMATチーム現場派遣を皮切りに、病院が丸となって人工呼吸管理やECMO管理を要する県内の最重症例の応需に数多く対応しました。一方で感染者から院内感染をきたした医療スタッフはゼロの状況を維持しています。

このように、筑波大学には大きな夢と、可能性と、それを可能にできる多くの人材が揃っています。医師としての素養を磨くための教育体制、人的資源、国際性、どれをとっても他にひけを取らない国内有数の大学です。是非本学の門戸を叩いていただき、医師として求められる、臨床、教育、研究、社会貢献のいずれにおいても力を発揮できる素晴らしい医師になって欲しいと願います。

Nursing

看護学類



教育理念

科学性と共感性を基盤とした看護学の専門能力を身に付け、保健、医療、福祉、教育、心理など多職種チームの一員として人々の健康生活の向上や改善を図り、広く人類のウェルビーイングに貢献できる人材を育成します。また、教育者、研究者、管理者としてそれぞれの専門分野で指導的役割を担い、国内はもとより世界で活躍できる人材の育成を目指します。

教育目標

4年間を通して一般的な科目(基礎科目)、専門的な教育科目(専門基礎科目、専門科目)が以下の教育目標を基盤として構成されています。筑波大学の特長のひとつとして他学類あるいは他学群の授業を受けることができます。

1. 基本的人権を擁護し、受容・共感できる豊かな人間性を養います。
2. 高い倫理観に基づいた行動ができる能力を養います。
3. 看護専門職に必要な知識・技術を習得し、適切な判断で看護活動が展開できる能力を養います。
4. 人々の健康生活を援助し、QOLの向上に貢献できる能力を養います。
5. 社会情勢の変化や科学技術の進歩に適応し、新たな看護を展開できる能力を養います。
6. 保健医療福祉などの関連領域の人々と協働し、リーダーシップを発揮できる能力を養います。
7. 研究的素養を育みつつ、生涯にわたって学習を継続できる能力を養います。
8. 国際的な志向を有し、グローバル水準に対応できる能力を養います。

看護学とは

看護学とは人が生まれてから死を迎えるまでに直面する健康のあらゆるレベルの問題を人々が解決しようとするプロセスを支援する学問です。つまり看護は、病気や障害の治療過程に関わるだけでなく、身体的、精神的、社会・文化的に健康でその人らしい生活が営めるよう地域や家族を含めた、病気の予防・健康の維持・増進に働きかけます。そして看護の対象となる人間のからだの構造・機能や疾病の学修のみならず、人々の生活環境や文化的背景、人間の発達に伴った社会・心理学的変化などの理解を通して、豊かな人間性を育む学問ともいえます。人々に看護を提供するための専門技術は、こうした幅広い人間理解と科学的な理論を基盤とした看護学の様々な演習や実習を有機的に取り入れながら習得していきます。

学ぶことは

看護学のカリキュラムは「人間」「健康」「環境」そして「看護」の4つの柱によって構成されています。

看護学類では「人間」の生の営みにおける看護の役割を理解しやすいように「環境」を「生活」という概念で捉え直し、看護学の主体性を明確にしつつ、視野の拡大と専門性を深めるために医学、心理学、社会学などとの連携を図ったカリキュラムで学びます。専門基礎科目では「心と行動の科学」「人間と生命科学」「生活支援科学」を3本柱として、人間の多様性と幅広い価値観などについて学びます。

専門科目は「臨床看護実践」「生涯発達看護」「地域看護実践」から構成されています。「臨床看護実践」では看護の基本となる看護技術を習得するとともに、臨床看護に必要な理論と専門的な技術について学修します。「生涯発達看護」では、小児を対象にした看護、女性の全般的な健康について学ぶウィメンズヘルス看護、高齢者の特性に応じた看護の理論及び専門的な技術を学び、「地域看護実践」では広く公衆衛生の観点から、精神看護学、地域や在宅における看護に関する理論と実践について学修します。その他、グローバルな視点の育成を目指した国際看護学、医学類・医療科学類等・他大学で医療を学ぶ学生たちとともにチーム医療について学習する科目など、看護の教育者、研究者、管理者等を目指す学生のために、看護学類では多彩な教育内容を取り入れています。また、保健師及び養護教諭に関する選択科目も開設しております。

主な授業科目 【2025年度入学生カリキュラム（大学案内と一部異なります）】

	1年生	2年生	3年生	4年生		
基礎科目	総合科目（学士基盤科目） 体育実技		看護専門英語 保健医療福祉行政論Ⅰ、Ⅱ 国際保健学 医療経済学または環境保健	応用看護学演習Ⅱ（IBT） 医療チーム連携演習 応用看護学実習		
	英語			看護師	保健師 選択	養護教諭 選択
専門基礎科目	総合科目（ファーストイヤーセミナー、学問への誘い）情報リテラシー、データサイエンス 国語Ⅰ	哲学通論	臨床看護方法論 臨床看護学実習（クリティカルケア） 臨床看護学実習（セルフケア） 精神看護学実習 ウィメンズヘルス看護学方法論 ウィメンズヘルス看護学実習 子どもの発達支援方法論 子どもの発達支援実習（保育所・施設ふれあい実習） 子どもの発達支援実習（病院実習） 地域・在宅看護論 地域・在宅看護方法論 地域・在宅看護論実習 ヘルスプロモーションと看護 看護マネジメント 災害看護学 応用看護学演習Ⅰ（OSCE） 研究方法概論 ヘルスプロモーション実習Ⅰ ヘルスプロモーション実習Ⅱ			
	専門科目	人体機能学 人体構造学 医療生命科学とテクノロジー 日本国憲法	人間関係論 心の健康と相談活動 行動科学 コミュニティ・エンパワメント論 人体の代謝と栄養 臨床薬理学 機能形態学演習 遺伝と健康 微生物学 保健統計学 疫学・疾病の治療と看護Ⅰ・Ⅱ 障害理解・老化と健康 子どもの健康と障害			公衆衛生看護学応用論
基礎看護学概論 看護生命倫理 公衆衛生看護学概論 精神看護学概論 高齢者看護学概論 生涯発達と家族支援		基本看護技術 基本看護技術演習 フィジカルアセスメント 看護過程 看護技術実習 看護過程実習 職域における保健活動 臨床看護学概論 精神看護方法論 ウィメンズヘルス看護学概論 子どもの発達支援学概論 高齢者看護方法論 高齢者看護学実習 家族病理とメンタルヘルス 国際看護学 看護学探究概説	公衆衛生看護学活動論			
選択科目	現代教育と教育理念 教育史概論 教職論 教育社会学概論 教育の法と制度 学校経営概説	教育心理学 道徳教育 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の理論と実践	特別支援教育 教育課程編成論 教育の方法と技術 生徒指導 教育相談 養護概説			

- ：基礎科目
- ：専門基礎科目
- ：専門科目
- ：看護師授業科目
- ：保健師選択科目
- ：養護教諭選択科目

注）保健師コースおよび養護教諭コースは選択（選抜）制です。

卒業後の進路

看護師

看護師の役割は、健康上の問題から引き起こされる、人々の身体的、心理的な苦痛を軽減し、問題を抱えた人自らが、その問題を解決できるように支援することです。また、看護師は、医療の高度化に順応し、常に研究心を持ちつづける、科学的看護の実践者でなければなりません。

そのような看護師を育成するために、本学類では、総合大学の特性を生かし、看護学を中心にしながら、医学、心理学、社会学等との連携を図っています。また、実践能力の向上をめざして、臨地実習のほかに、臨床実技試験(OSCE)や、医学生や医療・福祉の学生たちとともにチーム医療を学ぶケア・コロキウムといった、他大学でもまだ例の少ない先駆的な教育を実施しています。

本学類の学生は、卒業時に学士(看護学)の学位が与えられます。卒業後は、取得予定の国家資格を生かし、高度な医療を提供できる総合病院など、全国各地の医療機関で、看護師として勤務することが可能です。



保健師

【保健師とは】

地域には、乳児から高齢者まで、そして、健康な人から病気になってしまった方まであらゆる人々が生活しています。その方々の健康を守り、病気にならないように予防し、病気になっても早く回復できるように、そして、生きがいをもって健康的な生活ができるように、様々な支援活動を、公的な立場から行っている医療専門職が保健師です。

保健師の多くは、現在、市町村の保健センターや保健所において活動しております。また企業そして福祉施設でも活躍しています。(保健師コースは選択(選抜)制で人数制限があります。)

【保健師の活動】

- ① 地域の状況をアセスメントし、地域の健康問題を診断し地域の健康ニーズを把握します。
- ② 地域の人々の健康ニーズに応じた、様々な保健事業サービスを企画、展開します。
- ③ 公衆衛生の拠点である保健所においては、地域の健康を守る広域的、専門的、技術的な活動を行っています。
- ④ 地域の人々に身近な自治体である市町村においては、健康診査、健康相談、健康教室、家庭訪問などを行い、人々の健康を守る活動を行っています。
- ⑤ 保健、医療、福祉等の様々な方々と連携し、地域の人々の健康を守るシステムづくりに関して活動しています。



資格の取得状況と卒業後の進路

資格取得状況（新卒者）

国家資格等	令和6年度			令和7年度		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
看護師免許	70名	70名	100%	67名	66名	98.5%
保健師免許	18名	18名	100%	17名	17名	100%
養護教諭一種免許	5名			2名		

* 2012年度入学者から看護学類での助産師教育は終了し、大学院で行っています。

進路状況

	令和6年度	令和7年度
病院等（看護師）	52名	48名
都道府県、市町村等（保健師）	5名	9名
養護教諭	3名	1名
進学（大学院等）	12名	18名
その他	8名	6名
合計	80名	82名

養護教諭

養護教諭とは、学校で子どもの心身の保健管理・保健教育を担当する教員です。看護学と教育学の専門知識を兼ね備えた教員です。主に保健室に常駐し、けがや病気の応急処置、健康診断と保健指導、様々な問題や悩みをもつ子どもの健康相談、学校保健委員会のような委員会活動などを行っています。看護学類では、養護教諭一種免許状の取得に必要な看護学、教育学、心理学、医学などの科目が開講され、広い視野から学校保健・学校看護について学修しています。4年次の養護実習では実践を通じて知識・技術を深めていきます。卒業後の進路には、大学院への進学や養護教諭としての就職などがあります。本学では将来指導的立場に立つための養護教諭専修免許状が取得できる大学院が設置されています。公立学校の養護教諭として就職する場合は、都道府県や市が行う教員採用試験に合格して採用されます。（養護教諭コースは選択（選抜）制で人数の制限があります。）

大学院への進学

平成19年4月、人間総合科学研究科に看護科学専攻が設置され、令和2年4月、改組再編により人間総合科学学術院人間総合科学研究群看護科学学位プログラム〔博士前期（修士課程）〕〔博士後期（博士課程）〕が開設されました。看護を通して人々の幸福を実現し、社会の改善向上を図り、文化の発展に寄与することを基本理念に、21世紀のわが国における看護領域の最先端の研究や高度医療に精通した、保健・福祉の変化に柔軟に対応できる人材を育成してゆきます。大学院に進学することで、看護の教育者・研究者を目指すことが可能です。

在校生・卒業生からのメッセージ



沖田 かえでさん
3年生
さいたま市立
浦和高等学校出身

私が筑波大学に入学してから2年が経ちました。ここでは、これまでの学校生活を通して実感している、筑波大学看護学類の魅力をお話します。

1つ目は、筑波大学が“開かれた大学”であり、学校生活を通じて学際的で幅広い視点を得られるという点です。全ての学類が1つのキャンパスに集う筑波大学では、医療系に限らず様々な分野を学ぶ学生や教員と関わる機会が豊富にあります。授業や課外活動を通じ、自分の専門分野だけでは得られない考え方に触れることができるのは、筑波大学ならではの魅力です。例えば、私の場合はピア・チューターとして学生同士で学びを支える活動に関わった経験から、個性性に配慮して関わることの必要性を学びました。看護学類での学びに加え、他分野の授業や活動に参加することで、人の生活や学びを支えることについて考え、自身の看護観につながる新たな視点を得ることができたと実感しています。専門職に就く者として、自分の興味に合わせて幅広い学びを得られる環境は最適であると感じています。

2つ目は、文武両道を実現し、チームで何かを成し遂げる経験を得られることです。筑波大学には様々な部活動やサークルが存在し、私の友人にも学業と課題活動を両立している人がたくさんいます。私自身も、医学ラグビー部マネージャーとつくばぬいぐるみ病院、学園祭実行委員に所属し、活動しています。課外活動は、他学類の間からも刺激を受け対等に支え合う経験となり、こうした経験は充実した大学生活を実現するとともに、将来チーム医療の一員として多職種と連携していくための根幹になると考えます。

私は、看護という専門職を考える人こそ、総合大学であり、夢や目標に向かって積極的な日々を過ごすことができる筑波大学をお勧めしたいです。ここでの私の経験は、患者さんとのコミュニケーションや看護実践の場において確かな自信につながっていることを実感しています。皆さんと筑波大学でお会いできる日を、心から楽しみにしています。



小島 悠さん
4年生
(総合学域群より移行)
茨城県立
並木中等教育学校出身

みなさんこんにちは。看護学類4年生の小島悠です。私は、総合学域群というところから看護学類に移行してきました。筑波大学では、一般選抜のほかに、総合学域群に入学し、1年間あらゆる学類の授業を受けながら自分の進路を考え、2年次から希望の学類に移行する総合選抜があります。私は、高校3年生の大学受験のタイミングで自分の進路を決め切ることができず、1年間様々な分野に触れながら自分の将来を考えるために、総合学域群に入学しました。もともと医療分野に興味があったので、医学群への移行を考えた履修を組みました。高校時代は、看護学類に進学したら看護師になる以外の道はない、と思っていたので、看護学類への進学は少しも考えていませんでした。しかし、大学入学後に、すべての学群・学類の先生のお話を聞く機会があり、そこで、看護学類は看護師になるための勉強はもちろん、研究にも力を入れており、自分のやりたいことに挑戦することができると思いました。これが、看護学類への移行を決めたきっかけです。

筑波大学の看護学類の大きな特徴の1つとして、臨床での看護の実践のために必要な知識や技術を学ぶだけでなく、主体的な学びを実現することができるということが挙げられます。授業では、グループワークが多く取り入れられ、志の高い仲間とともに、自分たちで考える力をつけ、高め合っていくことができる環境にあります。また、看護学類の先生方は、研究者として第一線で活躍されており、授業を通して研究の実際についても知ることができます。先生方は「やってみたい!」という気持ちを後押ししてくださり、私自身、研究をしたり、プログラムに参加したりと充実した日々を送ることができています。看護学類に移行して良かったと、心から感じています。

筑波大学では、多様な学びを得ることができます。自分が思いもしなかった方向へ進んでいくこともあります。自分の興味をとことん探究することができるこの環境で、みなさんが学びを深めていけることを願っています。ご入学を心からお持ちしております。



横島 佳奈さん
2024年度卒業
筑波大学附属病院
消化器外科・脳神経外科

私は、生まれ育った茨城県内で、看護を専門的に学びながら、総合大学ならではの幅広い学びや多様な人との出会いが得られる環境に魅力を感じ、筑波大学に進学しました。実習や講義、卒業研究を通して、看護を1つの視点だけでなく、患者さんの生活や地域、多職種との関わりの中で考える力を身につけることができました。

在学中は医学バドミントン部に所属しており、医療系の学生が出場する大会に向けて週3日ほど練習に励んでいました。部内には医学群以外の学生も所属しており、学年・学類の壁を越えた交流ができました。こうした経験は、卒業後に就職した病院でも、先輩方や同期と関係を築き、チームの一員として働くうえで生きていると感じています。また、バドミントンを通じた交流の場を広げることで、職場内でのコミュニケーションのきっかけにもなっています。

看護の探究演習(卒業研究)では認知症をテーマに取り組み、学内外で開催される認知症関連のイベントにも積極的に参加しました。実際に地域の方々や当事者の声に触れることで、教科書だけでは得られない学びや気づきを得ることができ、看護職としての視野が大きく広がったと感じています。また、研究活動を通して、対象者のリクルートからデータ収集、分析、結果の解釈・検討に至るまで、一連の研究プロセスを経験することができました。これらの経験は、現在の看護実践においても、患者さんを疾患だけで捉えるのではなく、その人の生活背景や価値観、ご家族との関係性を含めて理解しようとする姿勢につながっています。また、学生時代にさまざまな人と関わりながら学んだ経験は、患者さんや多職種と関係を築くうえで大切な土台になっていると感じています。

本学類では、専門的な知識や技術の習得はもちろん、多様な人との出会いや経験を通して自分自身を成長させることができます。これから入学される皆さんにも、ぜひ自分らしい学びと挑戦を楽しんでほしいと思います。



半田 理子さん

2021年度（養護教諭専攻）卒業

茨城県公立小学校
養護教諭

私は看護学類を卒業し、県内の公立小学校で養護教諭をしています。

学際的で教科横断的な学びと自然豊かなキャンパスに憧れ、地元の秋田県を離れ、筑波大学に入学しました。入学前は、看護学科は他学科の学生と共に活動する機会が少ない印象があり、閉塞的な雰囲気なのではないかと不安もありました。しかし、本学での学生生活はとても充実したもので、普段の授業や実習、課外活動等いつでも学類の仲間と支えあい、励ましあって笑顔の絶えないものでした。友人と、朝早くから夜遅くまで、医学図書館やセミナールームで普段の試験勉強や教員採用試験の対策、看護師国家試験の勉強をしたことは忘れられません。また、他学類・他大学の学生とチーム医療を学ぶ学類独自の科目をはじめ、教職やサークル活動等、たくさんの人や価値観と出会う機会も非常に多く、入学前の不安はすぐに払拭されたことを覚えています。この出会いによる学びは、今でも日々の活力につながっています。

養護教諭は、学校に数名しかいない看護職です。専門職としての責任は大きいですが、やりがいもその分大きいです。看護の視点はもちろん、教育の視点も兼ね備えた職種として、子どもたちの健やかな学習のために支援しています。子どもたちの元気な声を聞きながら、成長を心と身体の両面からサポートできることがこの職業の魅力だと感じています。

養護教諭のルーツは教育、心理、看護、福祉等様々です。それだけ多くの視点がこの職業に求められるということだと思います。筑波大学看護学類では、特色ある講義や手厚い実習を通して、仲間とともに学び、考え、悩みながらたくさんの価値観と出会うことができます。皆様のご入学を心よりお待ちしております。



高橋 舞衣さん

2023年度卒業

筑波大学大学院
人間総合科学術院
人間総合科学研究群
看護科学学位プログラム
2025年度修了済生会横浜市東部病院
助産師

受験生の皆様、こんにちは。私は、2023年度に看護学類を卒業し、本学の大学院に進学しました。現在は、助産師免許を取得し、助産師として勤務しています。

私は高校生の頃から助産師を志し、筑波大学に進学しました。医療ニーズが多様化する現代では、質の高い看護を提供するために高度な技術と知識が求められます。筑波大学では、エビデンスに基づく看護実践を重視しており、助産のプロフェッショナルとして成長するため、科学的根拠に基づいた助産実践を目的に大学院への進学を決めました。筑波大学の魅力は、専門性を高めるための教育だけでなく、多角的な視点を養える点にもあります。総合大学であるため、1年次から他学類の授業を受けることができます。他の専門分野を学ぶことは、非常に刺激的で自分の視野を広げることもつながります。グループディスカッションのある授業では、他分野の知見を得ることができ、それが自分の専門分野にどう還元していくか考えるきっかけにもなりました。また、学類生のうちから自分の関心を深めるための支援活動も充実しています。自分の興味やニーズに対して、新たに創造することができるため、看護学に限らず、自分の探求心を追求することができるチャンスです。このようなチャンスがたくさん散りばめられているので、自分のキャリアと向き合うためのヒントにたくさん出会えると思います。

さらに、筑波大学は部活動やサークル活動も盛んです。私は勉強だけでなく、課外活動にも積極的に取り組み、仲間と切磋琢磨する中で、学業だけでは得られない貴重な経験を積むことができ、充実した大学生活を送ることができました。医学群だけではなく、他学類の学生とも交流できるのは、広大なキャンパスをもつ筑波大学ならではの魅力です。

筑波大学は、専門分野を深めるだけでなく、幅広い視点で物事を捉える力を育む環境が整っています。たくさんの挑戦と出会いが待つ筑波大学へのご入学を心よりお待ちしております。



宮崎 星さん

2017年度卒業

筑波大学大学院
人間総合科学術院
人間総合科学研究群
博士前期課程
看護科学学位プログラム
2022年度修了茨城県保健医療部健康推進課
(地域包括ケア推進室 地域
支援在宅医療グループ) 技師

受験生の皆様こんにちは。私は、2018年の春に筑波大学看護学類を卒業後、茨城県内の保健所での勤務を経て、現在は茨城県庁で保健師として勤務しています。

皆さんは、保健師がどんな職種かご存じですか？ COVID-19パンデミックで知った方もいらっしゃると思います。私自身は、大学入学時には保健師について殆ど知りませんでした。保健師は、多くが市町村や都道府県等の自治体や厚生省などの行政機関に勤務し、疾患や障害を持つ方に限らず地域で暮らす全ての人の健康を支えています。近年では、パンデミックや気候変動、災害、少子高齢化など社会が目まぐるしく変化していく中で、人々や地域は健康に関する様々な課題を抱えています。そのような課題に対し、保健師として住民や関係機関の人々とつながり協働していくことに、私はやりがいを感じています。

私の保健師としてのキャリアのきっかけは、筑波大学ならではの海外研修プログラムと親身になって一緒に将来のキャリアを考えてくださる素晴らしい先生方の存在です。海外研修では、現地の人々の暮らしを肌で感じ、日本とは異なるその国ならではの健康課題や取り組みがあることを知り、その地域の現状に即した保健活動に興味を持ちました。看護学類の先生方には、在学中だけでなく卒業後もキャリアの多様な選択肢をお示しいただいたいただき、そんな温かい先生方の元で学ぶため、卒後4年目に今度は大学院生として学びの場に戻ってきたほどです。

大学入学時にはほとんど知らなかった職種に対し、今、やりがいを感じ、心から選んでよかったと思っているのは、筑波大学がきっかけを与えてくれたおかげですし、筑波大学は、卒業生としても長く繋がりが続けることのできるアットホームな大学です。看護学科はどこの大学でも同じと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、緑豊かなキャンパスで温かい友人、先生方に囲まれて、のびのびと学び、沢山のチャレンジの機会を提供してくれる筑波大学を、是非皆様にお勧め致します。

Medical Sciences

医療科学類



教育理念

医療を取り巻く状況は近年急速に変化しつつあります。感染症や生活習慣病の脅威、少子高齢化の進行、また子供たちの成育環境の悪化などが大きな社会問題となっている一方で、ヒトゲノムの完全解読宣言を受けて膨大なゲノム情報を利用して、種々の病気に対する新たな治療法の開発への期待も高まって来ています。臨床検査技術学の分野では、検査法の自動化と先進化にともない、これまでの検査室における検査にとどまらず、医師や看護師との強い連携のもとで、医療のプロフェッショナルとしての責任感と使命感を持ち、臨床に密着した業務を遂行する人材が必要になってきています。

本学類では、このような医療に対する社会の要請に即応するために、医療人としての責任感と使命感を身に付け、医科学の様々な分野で活躍するために必要な基礎的な知識、技能、態度を修得することを目指しています。

将来、医科学領域の研究・教育を推進し、また診断や治療に必要な新たな技術開発とその実践に関わって高度専門医療を担う人材を育成します。

教育目標

4年間を通して一般的な科目（基礎科目）、専門的な教育科目（専門基礎科目、専門科目）が以下の教育目標を基盤として構成されています。筑波大学の特徴のひとつとして他学類あるいは他学群の授業を受けることができます。

1. 基本的人権、公正な判断、及び高い倫理性に基づいて行動できる能力と様々な人間の状況や感情を受容し共感できる豊かな人間性を養います。
2. 高度の専門知識と技能を身につけると共に、適切な判断に基づく主体的な展開能力と将来を先見した専門能力を養います。
3. 医療・福祉などの他領域と連携し、人々の健康生活を援助し高いQOL (Quality of Life) 実現に貢献できる能力を養います。
4. 研究・開発に必要な創造力と学力を養うと共に、生涯にわたり自己学習を継続できる能力を養います。
5. 国際性を志向し、積極的に国際医療活動に対応できる能力を養います。

医療科学とは

医療科学とは、広義では医科学と同義ですが、狭義では基礎医学と臨床（あるいは社会）医学とを結び、人々の健康と安全に寄与する学問・研究です。

心電図、脳波などの生理検査や、血液、尿、組織などの病理、化学、生化学検査をする技術を習得してチーム医療に参加するとともに、疾病の診断や治療に必要な臨床研究や基礎研究を行って検査技術の新たなる展開を目的とする学問です。

学ぶことは

1～2年次の教育課程は、医療科学・国際医療科学の両専攻共通で、各専攻を専攻するための基礎学力や基本的な態度、思考法を身につけます。人体の構造と機能、疾病の成り立ち、保健医療福祉、医学検査学、臨床病態学、医用工学などを履修し、両専攻に共通の基礎と技術を学びます。3年次より医療科学主専攻と、国際医療科学主専攻のいずれかのコースを選択できます。

医療科学主専攻では、病態検査、画像検査、生理機能検査など臨床検査に必須の理論と実際を学びます。臨床実習で臨床検査の現場を体験するほか、医療科学の最先端を体験する卒業研究に従事し、医療科学研究に参画できる資質を獲得します。

国際医療科学主専攻では、医科学領域のグローバルな課題に取り組むための専門英語コミュニケーション力と研究実践力を重点に修得します。



授業科目抜粋

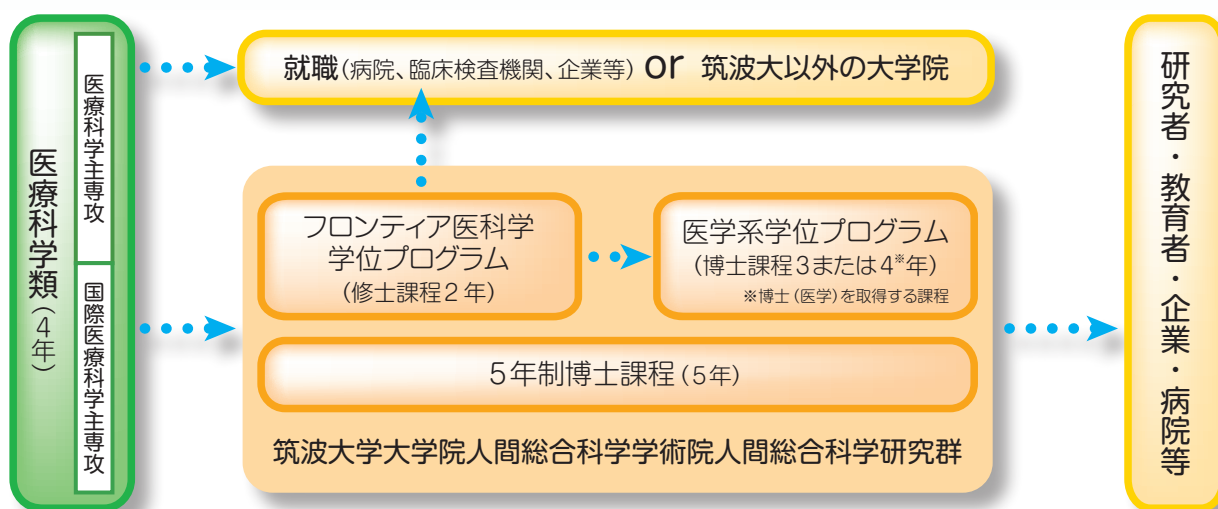
	1年次	2年次		3年次	4年次
専門的な科目	人体構造学	基礎医学総論	医療科学主専攻	臨床薬理学	医療情報管理学
	人体機能学	臨床病態学		輸血学	医学検査学フロンティア
	電磁気学1	免疫検査学		病態検査学	卒業研究
	医科生化学	病理組織学		画像検査学	
	医科分子生物学	遺伝子検査学		免疫検査学実習	
	医療科学概論	血液検査学		医科学英語論文講読の基礎*	
		生化学成分検査学		臨床実習	
		医療経済学		医科学専門語学	医療科学特論Ⅱ
		微生物学		医療科学特論Ⅰ	卒業研究
		RI検査技術学		医科学演習	
	保険衛生論	研究演習			
一般的な科目	体育		国際医療科学主専攻		
	総合科目				
	ファーストイヤーセミナー				
	英語				
	情報				

*は両主専攻共通科目



卒業後の進路

医療科学類では4年の間に、臨床検査学の各科目をコアとして、広く医科学を学びます。卒業時には、臨床検査技師の国家試験受験資格が得られます。進学先としては、人間総合科学学術院人間総合科学研究群の中のフロンティア医科学学位プログラム(修士課程)があり、さらに博士課程への進学も可能です。就職先は、臨床検査技師の資格や大学院における研究を活かしたものになります。



進学

大学院に進学し、より深い医療科学の修得や研究を進め、将来研究者や教育者をを目指す道も用意されます。医療科学類卒業生の主な進学先である本学のフロンティア医科学学位プログラム(修士課程)では、修了生が研究者・教育者あるいは高度専門職業人など多様な進路に進んで、安心して健康な社会の実現と維持のために活躍する人材となるように育成することを目的としています。

具体的には下記の人材の育成を目指しています。

- 大学などの研究・教育機関において医科学の基礎的研究の推進に貢献しうる人材
- 医療に関係する企業等において研究開発や医療関連業務に携わる人材
- 国際保健協力・医療行政・予防医学・労働衛生・医療施設管理・福祉などの分野において活躍できる人材
- 医療の安全や健康増進に資するための新分野を開拓できる人材

取得資格

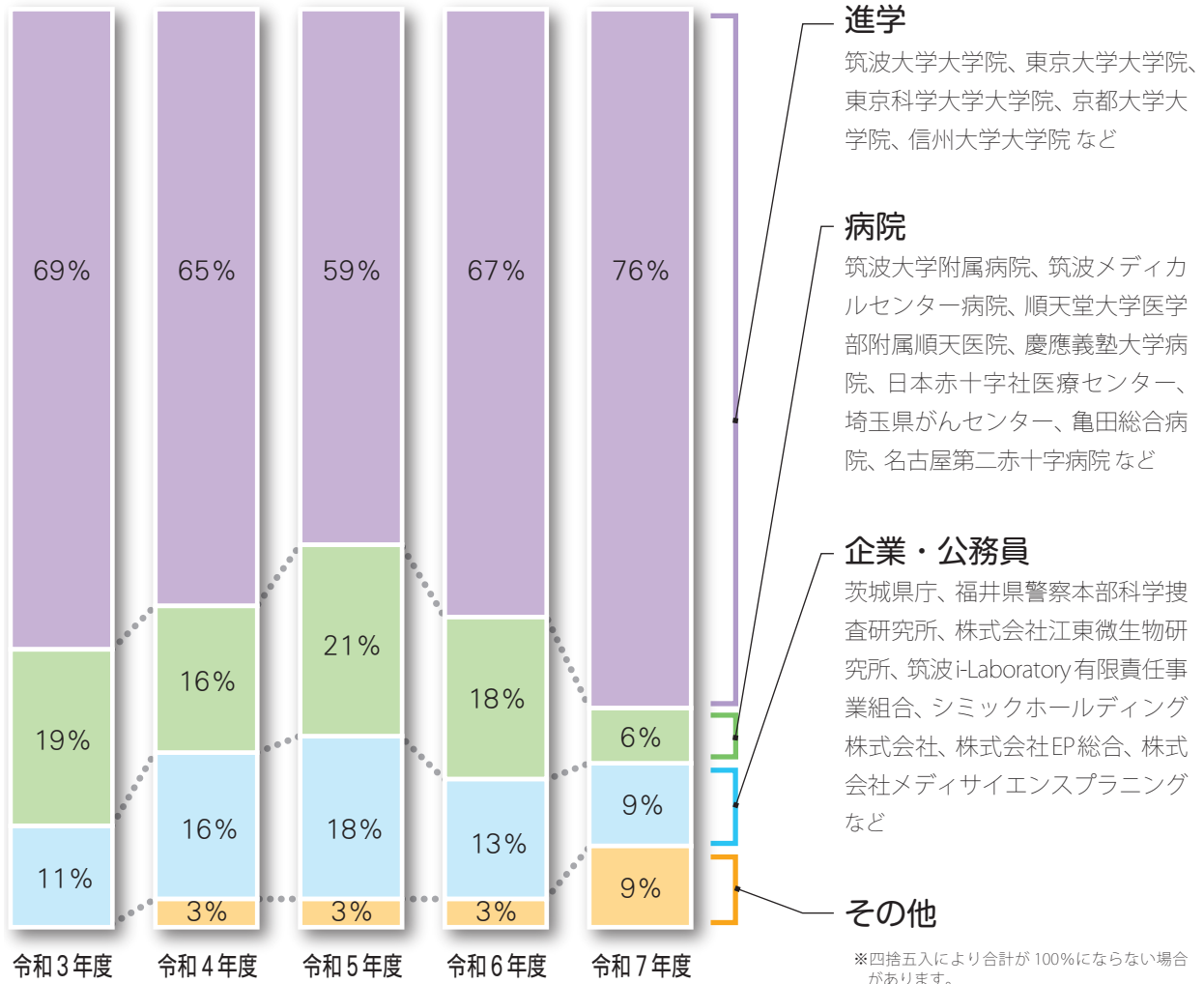
医療科学主専攻の学生は、卒業時に学士(医療科学)の学位と臨床検査技師国家試験受験資格が得られ、合格すれば臨床検査技師としての専門職に就く道が開かれています。その後、細胞検査士養成所に進学し、所定の教育と試験を受けて細胞診の専門家になることもできます。臨床検査技師が資格要件となるものには、超音波検査士、健康食品管理士、日本糖尿病療養指導士、治験コーディネーターなどがあります。

卒業生は病院をはじめ、検査センターなどにおいて第一線の臨床検査技師として活躍しています。また、製薬、食品、化学関連の企業に就職し、その研究所で商品開発や研究で活躍することもできるでしょう。

国際医療科学主専攻の学生は、卒業時に学士(国際医療科学)の称号が与えられます。また、3年次編入学生を除き、希望に応じ自由科目を選択することで、臨床検査技師国家試験受験資格を得ることもできます。



卒業後の進路



在校生・卒業生からのメッセージ



石原 美結さん
医療科学類2年生
東京都立
青山高等学校出身

皆さんこんにちは。医療科学類2年の石原美結です。こちらでは私が思う医療科学類の魅力についてお伝えします。

私が医療科学類に志望した動機は、幼い頃から医療や人体に興味があったということが主軸となっています。高校3年生になり受験勉強をしていくにつれ、医学を学ぶことの楽しさを発見し、大学では医療を学びこの先医療に関わる仕事がしたいと感じるようになりました。医療科学類は4年間で卒業でき国試の取得が必須ではないため、医学研究に集中できると思い志望しました。特に私は自己免疫疾患について関心があり、将来的には大学院まで進学し研究をしたいと考えております。

さて、医療科学類は主に臨床検査技師の資格取得を目指す医療科学専攻、医学研究を中心に行う国際医療科学専攻の2種類に分かれます。自分がどちらのコースに進むかは2年生の後半で決めるため、「将来の仕事はまだ漠然としているけど、とりあえず医学を学んでみたい」という方にもぜひ入っていただきたい学類です。学んでいくにつれ、自分の学びたい分野や将来の夢がきつと見つかるはずですよ。

1年次の授業は主に座学で、医学の基礎を広く学びます。2年次からは実習が増え、1年生で学んだことを直接体験できる機会も増えます。

医療科学類は人数が少なく、必修が多いため自然とクラス全体で仲良くなる機会も多く、和気あいあいとしています。テスト前は協力しあって勉強したり、レポートで分からないところは教え合ったり、日々共に切磋琢磨できる仲間がいることがとても心強いです。学類の中で良い人間関係が築けることも医療科学類の魅力です。

カリキュラムが充実していて忙しい印象のある学類ではありますが、サークルやアルバイトとの両立もでき、長期休みには旅行にたくさん行ったりサークル活動に積極的に関わることでもできました。

皆さんも興味を持ったらぜひ医療科学類に来てください。ご入学、心からお待ちしております。



中島 玄太さん
国際医療科学主専攻3年生
私立
開明高等学校出身

皆さんこんにちは。医療科学類国際医療科学主専攻3年の中島玄太です。ここでは私が医療科学類で過ごしてきて感じたことなどを書かせていただきます。医療科学類での生活を少しでもイメージしていただければ幸いです。いきなりネガティブな内容になってしまいますが、私の学年である3年生は授業や実習が多く、日々のレポートを書くのに精一杯で、アルバイトなどと両立するのが大変です。しかし、あらゆる分野の実習を経験していく中で、実習一つ一つの内容は違えど、「この手技は前の実習でやったからもう自分でできるやんつ」と、今まで学んできたことを生かすことができ、成長を感じています。実習と聞くと実験室で黙々と実験するようなイメージを持たれるかもしれませんが、決してそんなことはなく、友達と意見を出し合い、疑問があれば先生にすぐ質問できるような明るい雰囲気、私は座学より実際に手を動かす実習が面白いんです。また3年生は医療科学主専攻と国際医療科学主専攻の2つの主専攻に分かれる学年でもあります。2つの大きな違いは研究室配属の時期です。国際医療科学主専攻は3年次、医療科学主専攻は4年次で研究室に所属します。このように研究室所属の時期は決まっていますが、自分の興味のあることがあれば、1年次からでもその研究室で研究に触れることができます。そして国際医療科学主専攻は授業や研究室の中で英語を用いて発表する機会が多く、英語力を身に付けることができます。主専攻は分かれますが、授業や実習はほぼ学年全員で受けるので、「研究室で今こんなことをやっていて〜」と話が盛り上がりやすいです。私も高校生の時から興味があった研究室に所属でき、ワクワクしています。入学する時点で行きたい研究室がなくても大丈夫です。1~2年次の時の授業や、研究室見学などで自分の興味のある分野が見つかるはずですよ。私の友人も研究室希望のメールを送るギリギリまで悩んでいましたから安心してください。

医療科学類は学年の人数が少なく、少ないからこそ、先生との距離も近く、学年の仲間と助け合いながら成長していける素晴らしい環境だと感じています。

皆さんのご入学を心からお待ちしております。



神谷 紗良さん
国際医療科学主専攻4年生
(2023年度編入学)
名古屋市立
向陽高等学校出身

皆さん、こんにちは。医療科学類国際医療科学主専攻4年の神谷紗良です。ここでは、私が医療科学類を志望したきっかけや、実際に入学してから感じた魅力についてお伝えしたいと思います。

医療科学類は、臨床検査技師や研究者を目指す学生が多く在籍している学類として知られていますが、私自身はその中でも特に研究に興味を持って入学しました。私はもともと高校時代から植物を対象とした研究に興味があり、生命現象を探究することの面白さに惹かれてきました。こうした経験から、生理学的な仕組みを幅広く理解したいという思いが芽生え、医療科学類への進学を決めました。現在は、睡眠に関する研究にも取り組んでおり、日常生活に身近な現象を科学的に捉える面白さを実感しています。

実際に医療科学類で学ぶ中で感じている魅力の1つは、人とのつながりの強さです。担任の先生はとても親身に相談に乗ってくださり、学業や進路について不安があっても安心して話すことができます。また、クラスメートも少人数である分距離が近く、総合学域群から進学した私に対してもしっかりと接してくれました。実習や勉強で困ったときには自然と助け合いが生まれ、時には切磋琢磨しながら、時には相談しあって難しいレポートに取り組むことができる、とても恵まれた環境だと感じています。

さらに、私はサークル活動にも力を入れており、全国大会優勝という目標に向けて取り組みながら、学業や研究との両立を目指してきました。忙しい日々ではありますが、自分のやりたいことに真剣に向き合えば、両立は十分に可能だと実感しています。そして、その挑戦を支えてくれる周囲の環境にも日々感謝しています。

将来の進路が明確に決まっていなくても、「なんとなく医療や研究に興味がある」という段階の方でも、医療科学類には多様な研究室や学びの機会があり、自分のやりたいことを見つけていくことができます。皆さんにとっても、きっと充実した大学生活を送ることができる場所になると思います。

皆さんとこのキャンパスでお会いできる日を、心より楽しみにしています。



渡部 順子さん
医療科学専攻4年生
東京都立
日比谷高等学校出身

皆さんこんにちは。医療科学類医療科学専攻4年の渡部順子です。ここでは、私が医療科学類を志望した理由と、実際に学んで感じた魅力についてお伝えします。

私は高校時代、将来やりたいことが明確に定まっていなかったため、幅広く学べる総合学域群に入学しました。様々な授業を受ける中で生物や医療分野に興味を持つようになり、臨床検査技師として医療に関わる道と、基礎研究に取り組む道の両方が開かれている医療科学類に魅力を感じ、進学を決めました。医療に興味があれば、進路が明確でなくても学びながら自分の方向性を見つけていける点が、本学類の大きな魅力だと感じています。

実際に学び始めて感じた魅力は、学生同士の距離の近さと学修しやすい点です。医療科学類では1学年が同じクラスのような形で授業を受けるため、高校に近い雰囲気があり、自然と周囲と協力しながら学ぶことができます。試験前には過去問の解説を共有したり、分からないところを教え合ったりと、支え合いながら学びを深めることができています。また、クラス担任の先生に学業や進路について気軽に相談でき、親身に話を聞いていただける点も安心して学べる理由の1つです。

さらに、海外研修などのプログラムも充実しており、私自身も3年次の夏にベトナムで約1か月の短期留学に参加しました。現地の学生と英語でコミュニケーションを取りながら、薬剤耐性菌の課題について考える中で、細菌が薬剤耐性を獲得するメカニズムなどの基礎研究が国際的な課題の解決に重要であることを実感し、非常に印象に残る経験となりました。

医療科学類は、進路の選択肢が広く、短期留学などに挑戦できる機会もあり、周囲のサポートを受けながら学べる環境が整っています。私自身も入学当初はやりたいことが明確ではありませんでしたが、現在は酵母を用いた老化に関する基礎研究に興味を持ち、卒業研究に取り組んでいます。

将来やりたいことがはっきり決まっていなくても、研究や医療に少しでも興味があれば、ぜひ医療科学類への進学を考えてみてください。



秋山 健太郎さん
2011年度卒業
株式会社LSIメディエンス
アンチドーピング
ラボラトリー

みなさんこんにちは。2011年度に医療科学類を卒業し、その後本学大学院修士・博士課程を修了した秋山と申します。現在は株式会社LSIメディエンスに所属し、各地から届くドーピング検体の分析と新規検査法の研究開発に携わっています。

高校時代の私は「医学研究に関わりたい、でもスポーツとも離れたくない」という思いを抱えていました。医学群と体育学群の双方を擁する筑波大学であれば、両分野に触れながら進路を考えられると考え、進学を決めました。その中で医学を重点的に学ぶことを志向し、医療科学類を選択しました。入学後は分子生物学や病態学といった医学系科目を中心に履修するとともに、講義や研究活動を通して多角的に医療を捉える機会を得ることができ、視野が大きく広がりました。

学生生活の中で特に印象に残っているのは、学類の枠を越えて多角的にアプローチした研究経験です。疾患モデルを用いて発症機序の解明に取り組むとともに、工学分野では造影MRIの検討、体育分野では運動効果の評価を行うなど、1つの現象に対して分野を横断しながら研究を進めました。総合大学ならではの環境で、異なる分野の視点を取り入れて考える経験は、その後の進路を考える上でも大きな財産になりました。

こうした経験は現在の業務にもつながっています。私の担っているドーピング検体の分析はアスリートの人生に関わる重要な検査であり、1つの物質に対して複数の手法から検証を行い、データの信頼性を担保しています。その過程で求められる正確な実験手法やデータ解析、国際的な場での発信に至るまで、学生時代に培った多角的に物事を捉える視点が大きな支えとなっています。その一例として、2021年に開催された東京オリンピックという国際的な大規模プロジェクトにおける分析業務にも携わりました。

これから進路を選ぶみなさんの中には、まだやりたいことが明確でない方もいると思います。しかし筑波大学には、様々な分野に触れながら興味を見つけていける環境があります。日々の学びや出会いの中で、自分なりの進路を形にしてください。皆さんの挑戦を応援しています。



沖田 結花里さん
2007年度卒業
筑波大学医学医療系
助教

高校生の頃、「なぜ人は病気になるのだろう?」という純粋な疑問の答えを見つけたい、「何らかの形で医療に携わる仕事に就きたい」という漠然とした思いで志望校を探していました。新聞記事を読み、より多くの患者さんを救う可能性のある「医学研究」に興味を持ったのもその頃です。医療科学類(当時は看護・医療科学類 医療科学専攻)が、高度なスキルを持つ臨床検査技師と研究者の両方の育成を掲げていることを知り、ここなら自分の可能性を広げられるはずだと受験を決めた日のことを、今でもよく覚えています。

本学類の魅力は、基礎から臨床までを地続きに学べる網羅的なカリキュラムにあります。低学年で生化学、人体構造学、生理機能学、病理組織学といった医学の土台を固め、実習で多様な検査手法を習得し、臨床実習や卒業研究へと進みます。私自身、約1年間にわたる卒業研究で、「世界中でまだ誰も知らないことを、自ら明らかにできる」研究の面白さと奥深さに出会いました。それをきっかけに大学院進学を決め、人生の舵を研究の道へと切ることになりました。当時は、まさか自分が教員として母校の教壇に立つ未来があるとは夢にも思っていませんでしたが、そんな予期せぬ道が開けたことも、本学類で得られる可能性の広さゆえだと思えます。実際に卒業後のキャリアパスは、臨床検査技師、一般企業への就職、大学院進学など、実に様々です。

大学での4年間は、自分の将来をじっくりと見定め、未来を切り拓くための準備期間でもあります。またこの広大なキャンパスで出会う恩師や仲間との絆は、一生の財産になることでしょう。かつての級友や今の教え子たちを見ていると、4年間の学びや出会いを糧に、それぞれが自分らしい専門性を社会の中で見出しています。自らの未来へ一歩踏み出すための力と自信を、私たちと一緒にこの医療科学類で育んでいきましょう。

キャンパスライフ

イベント

筑波大学では、年間を通じて各種イベントが開催されています。

4月・5月 新入生歓迎祭

筑波大学に1日も早く慣れてもらうよう、サークルを中心に様々な催しものが繰り広げられます。

5月 宿舍祭(やどかり祭)

学生宿舍入居学生を中心に、神輿、模擬店、野外ライブ等が披露されます。

5月・11月 スポーツ・デー

11月 学園祭(雙峰祭)

学園祭は筑波山にちなみ雙峰祭と名付けられています。



課外活動

趣味を活かし、たくさんの友人を得ることは、充実した学生生活を送る上で大切なことです。筑波大学には、文化系、体育系、芸術系の約250のサークル団体があります。



学生宿舍

学生宿舍は、筑波大学構内の一の矢地区、平砂地区、追越地区及び春日地区にあり、新入生は、遠方の希望者から優先的に個室入居できるよう配慮されています。一般的な宿舍の広さは約10㎡(約6畳)で、居室には、机、椅子、ベッド、洗面台等が備え付けられています。また、各居住棟に共同の簡単な料理が作れる補食室、洗濯室、シャワー室、トイレがあります。これとは別に共用棟があり、ここには管理事務室、浴場(平砂地区のみ)、売店、理容室などが備わっています。1ヶ月の費用(2025年度)は、宿舍費15,380円(未改修棟)または19,410円(改修棟)でこの外に電気料、食費、入浴料等が必要です。学生宿舍では居住者の安全確保と防犯のため、暗証番号方式またはICタグ方式によるセキュリティシステムが建物入口に設置されています。全ての居室にLAN(有線および無線)が敷設され、プロバイダーと個別契約をすることなくインターネットが利用できます。さらに、キャンパスの国際化推進のため、平成29年4月から国際交流を重視したシェアハウスタイプの学生宿舍(グローバルヴィレッジ)の運用が開始されました。



アパート等

本学周辺地域には、相当数のアパート等があります。家賃等については、地域、建築年数や付属設備の有無により差がありますが、平均的な家賃は、アパート(6畳、台所、バス、トイレ付)で月額約35,000円～50,000円程度です。敷金及び礼金は、それぞれ家賃の1～2ヶ月相当分です。



授業料免除・奨学金・アルバイト

授業料免除……経済的理由等で納付が困難で、かつ学業成績が優秀な場合に免除される制度です。



奨学金……筑波大学学生奨学金「つくばスカラシップ」、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体、各種法人等が募集する奨学金制度があります。



アルバイト……学生アルバイト情報ネットワーク(通称:バイトネット)の筑波大学専用のアルバイト紹介システムにアクセスし、各自で申し込んでください。



ゆりのき通り



新入生歓迎祭



宿舍祭(やどかり祭)



学生宿舍・居室



つくばエクスプレス



サークル活動



スポーツ・デー



学園祭



けやき通り



卒業式(医学群)



つくば駅周辺

学年暦 (2026年度)

春学期：4月1日～9月30日

4月	学年開始	4月 1日
	春季休業	4月 1日～ 4月 5日
	入学式	4月 6日
	新入生オリエンテーション	4月 6日～ 4月 8日
	春学期 授業開始	4月14日
5月	春季 スポーツ・デー	5月16日～ 5月17日
7・8月	オープンキャンパス	7月25日, 7月26日, 8月 1日
8月	春学期 授業終了	8月 6日
8・9月	夏季休業	8月 8日～ 9月30日

秋学期：10月1日～3月31日

9月	秋学期 入学式	9月30日
10月	開学記念日	10月 1日
	秋学期 授業開始	10月 1日
10-11月	学園祭	10月30日～11月 1日
	秋季 スポーツ・デー	11月14日～11月15日
12・1月	冬季休業	12月25日～ 1月 5日
	秋学期 授業終了	2月15日
2・3月	春季休業	2月17日～ 3月31日
	卒業式	3月25日
	学年終了	3月31日



筑波大学における 医学研究分野

生命医学域

生命科学を基盤に、複雑系である生命現象の理解と、疾患の解明をめざします。

- | | | | |
|----------|-----------------|----------------------|--------------------|
| 解剖学・発生学 | 遺伝子制御学 | ゲノム生物学 | 幹細胞治療 |
| 解剖学・神経科学 | 分子腫瘍学 | 微生物叢生態学(メタボロゲノミクス分野) | 健康情報総合学 |
| 神経生物学 | 分子神経生物学 | 再生幹細胞生物学 | 循環器学(再生医学) |
| 神経薬理学 | 分子ウイルス学(感染生物学) | 医工学 | 血管マトリクス生物学 |
| 神経組織学 | 微生物学(感染生物学) | 実験動物学 | 分子遺伝疫学 |
| 診断病理学 | 寄生虫分子生物学(感染生物学) | ケミカルバイオロジー・IT創薬 | 環境生物学 |
| 実験病理学 | 免疫学 | バイオインフォマティクス | 環境保健学(産業精神医学・宇宙医学) |
| 認知行動神経科学 | 免疫制御学 | 医学物理学 | 法医学 |
| 分子行動生理学 | 遺伝医学 | 環境微生物学 | |
| 分子細胞生物学 | 小児環境医学 | 医学教育学 | |

臨床医学域

「生命を尊び、生命を救う」そのために、臨床、研究、教育、社会貢献を全力で実践します。

- | | | | |
|-----------------|--------------|-------------|----------------|
| 腎臓内科学 | 心臓血管外科学 | 小児科学 | 医学教育学 |
| 膠原病リウマチアレルギー内科学 | 小児外科学 | 産科・婦人科学 | 医学英語教育 |
| 血液内科学 | 消化器外科学 | 画像診断・IVR学 | 臨床腫瘍学 |
| 消化器内科学 | 腎泌尿器外科学 | 放射線腫瘍学 | 総合がん診療センター |
| 呼吸器内科学 | 脳神経外科学 | 放射線健康リスク科学 | 橋渡し・臨床研究学 |
| 循環器内科学 | サイバニクス医学 | 麻酔科学 | 臨床研究推進グループ |
| 代謝内分泌・糖尿病内科学 | 眼科学 | 臨床検査医学 | 臨床研究地域イノベーション学 |
| 神経内科学 | 光医学イメージング学 | スポーツ医科学 | 医療科学 |
| 皮膚科学 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 | 臨床薬剤学 | 医学数理情報学 |
| 感染症内科学 | 顎口腔外科学 | 救急・集中治療医学 | がん免疫治療研究 |
| 乳腺内分泌外科学 | 精神医学 | 医療情報マネジメント学 | 緩和医療学 |
| 形成外科学 | 災害・地域精神医学 | 地域医療教育学 | |

病院診療研究グループ

- | | | | |
|--------------------|---------------------|---------------|---------|
| 病院診療研究G(病理部) | 病院診療研究G(光学医療診療部) | 病院診療研究G(手術部) | 物流センター |
| 病院診療研究G(輸血細胞治療支援部) | 病院診療研究G(リハビリテーション部) | 病院診療研究G(総合内科) | 臨床医療管理部 |

社会医学研究グループ

- | | | | |
|-------------|-----------|---------------|----------|
| 社会健康医学 | 臨床試験・臨床疫学 | 国際社会医学 | ライフコース疫学 |
| ヘルスサービスリサーチ | 社会精神保健学 | 保健医療政策学・医療経済学 | |

看護・健康科学域

看護学と健康科学の融合により、人間の健康を科学的に探求し、持続可能な健康社会の実現に挑戦します。

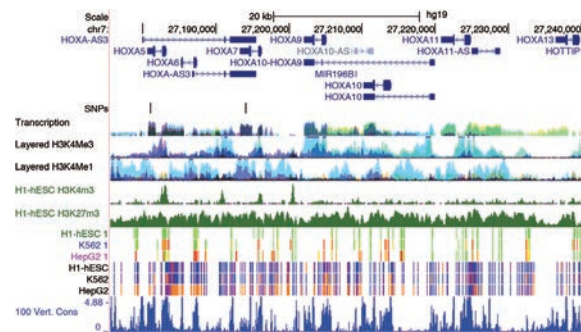
- | | | | |
|-------------------|------------------------------|------------------------|---------|
| 看護理工学・ウィメンズヘルス看護学 | がん看護学・緩和ケア
国際発達ケア・発達支援看護学 | 公衆衛生看護学
グローバルヘルス看護学 | 療養調整看護学 |
|-------------------|------------------------------|------------------------|---------|

生命医科学域における研究

基礎医学分野では、ヒトの正常と病態の解明を目指して、生命活動を支える分子の働きから、個体の発生、複雑な脳の機能、感染性生物と防御反応、免疫とアレルギー、がんなどについて、世界をリードする研究が多数行われています。

● 遺伝子の発現調節

ゲノム解析技術の進歩により、ヒトの遺伝的多様性と個性や病気になりやすい体質との関連が解析されています。また、遺伝子スイッチのオン・オフの調節についても、多くの因子が協調して遺伝情報の発現を制御する、システムレベルでの理解が進んでいます。筑波大学には、ゲノムの制御状態「エピゲノム」を構成する転写因子やクロマチン構造に関する優れた研究の蓄積があり、ウイルスの複製、がん細胞の増殖、血球の発生・分化、薬物・毒物に対する応答などに関する幅広い分野の研究の基盤となっています。



UCSC ゲノムブラウザ上で可視化したヒト HOXA 遺伝子クラスターのエピゲノム：クロマチン構造、ヒストンタンパク質の修飾や DNA のメチル化状態を解析することによって、細胞の分化・発生段階、ヒト疾患に関連したゲノムの制御状態が明らかにされつつあります。膨大なゲノム解析データをインフォマティクス手法を用いて統合的に解析します。

● 遺伝子改変動物

筑波大学の基礎医学研究のもうひとつの特徴は、遺伝子改変動物を用いた研究が大変盛んだということです。様々な生体内分子の機能や最近注目されている幹細胞の研究についても、生きた動物の体内でその機能を調べることが重要視され

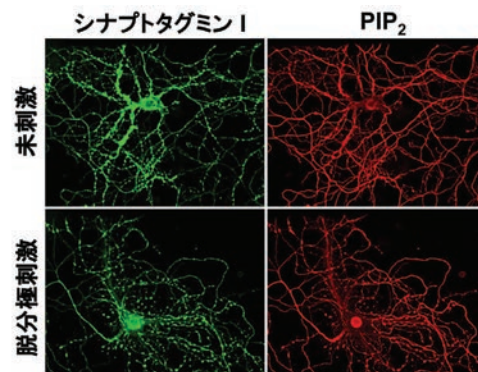


ています。さらには様々な病気のモデル動物を製作し、個体全体の中で正常と病態を理解していくという気運が高く維持されています。

血管可視化マウス (Flk1-GFP:Flt1-tdsRed BAC Tg) の妊娠 10 日目の胎仔の像。このマウスは血管の発生や病的血管新生の研究に有益なモデル動物である。

● 脳科学研究

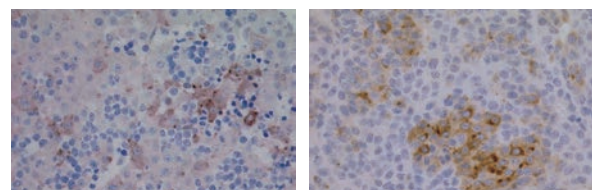
筑波大学では、解剖学、生理学、生化学の各分野から神経科学に取り組んでいる研究グループがあり、神経回路の形成過程や運動の制御、睡眠・覚醒の調節をはじめとする脳高次機能に関する研究など、様々な角度から脳の研究が行なわれています。



現代の細胞生物学の技術では、動物個体の臓器や組織を構成する様々な細胞を取り出してシャーレで培養することが可能となり、また、細胞内に存在する蛋白質や分子を容易に可視化することができます。マウスの脳から神経細胞を取り出してシャーレで培養すると、軸索や樹状突起と呼ばれる長い突起を伸ばして、標的の神経細胞とシナプスを形成します (写真左：緑色の斑点は神経細胞内のシナプトタグミン I 蛋白質を可視化したシナプス部位です)。神経細胞の興奮 (脱分極) に伴って神経伝達物質が放出され、これを標的の神経細胞が受け取ることで神経伝達が行われます。神経細胞の脱分極時にも、シナプス部位では特殊な分子 (写真右の赤色はリン脂質の PIP2 を可視化したもの) が産生され、神経活動に重要な役割を果たすことが見出されています。このような研究は、学習や記憶など、脳高次機能の分子メカニズムを理解するうえで大変重要です。

● がん研究

がんの研究もさかんです。転写の調節因子や細胞内のシグナル伝達分子の異常による発がんに関する研究や分子生物学をがんの診断に応用する研究などが行なわれています。



がんの特質のひとつは『先祖帰り』です。胎児の組織で特徴的に発現する遺伝子のがん組織に発現することがあり、これらの胎児性蛋白質はがん診断のマーカーになるだけでなく、治療のターゲットにもなりうる蛋白です。左はブタの 5 週令の胎児組織で、胎児の初期に特徴的に高発現する蛋白のひとつである Dkk3 の免疫染色像です。胎児組織に観察される髄外造血細胞に混じて存在する胎児の幼弱肝細胞に陽性です。右はヒト肝芽腫組織でこの胎児性蛋白質は腫瘍細胞でも発現している事がわかります。

臨床医学域における研究

臨床医学分野では、多数の教員がいくつもの研究グループを構成し、様々な疾患の原因・発症機序・病態の解明と、新しいより優れた診断・治療・予防法の確立をめざして研究を行っています。

●最先端の臨床医学研究

臨床医学分野においては、近年飛躍的な進歩を遂げている分野の技術を取り入れ先進的な臨床研究を進めています。分子病態解析、遺伝子解析などの手法は、すでに研究のみならず日常の検査としても広く取り入れられ、各個人の病状に応じた最適な治療(テーラーメイド医療)を提供することに貢献しています。また、3D-コンピュータ断層撮影(CT)などの新画像技術、カテーテル・アブレーションによる不整脈治療、内視鏡・ロボット支援手術、がんゲノム医療など、ハイテク機器を用いた研究成果は、すでに臨床応用されています。また、がん、エイズ、遺伝性疾患、自己免疫疾患などの難治性疾患にも積極的に取り組み、臓器移植、細胞療法、遺伝子治療、再生医療などの分野で新しい治療法の開発をしています。また、筑波大学が開発された当初から力を入れている陽子線治療や、近年開発された脳腫瘍に対する中性子捕捉療法は全世界のトップリーダーとして牽引しています。

がん治療法の開発においては一定の治療計画に基づいた治療成績を継続的に集積し、データベースを構築していくことが極めて重要です。このような信頼性の高いデータベースを構築するために、附属病院ではいくつもの先進的な質の高い臨床試験が実施され、新しい治療法の開発に寄与しています。附属病院は2019年9月にがんゲノム医療拠点病院に指定され、がんゲノム外来を開設しました。ここでは病理組織からDNA



筑波大学附属病院のエキスパートパネルの様子。医師だけでなく病理を扱う臨床検査技師、看護師、薬剤師、遺伝子カウンセラーなど多職種のメンバーが参加している。2020年4月からWeb会議になっている。

を抽出し、遺伝子パネル検査、専門家会議(エキスパートパネル)を経て患者さんに適切な治療法の選択に役立てるがんゲノム医療医療を実践するとともに、国立がん研究センターのデータベース構築に協力しています。

がん以外にも、動脈硬化、糖尿病、高脂血症、高血圧、メタボリック・シンドロームなど様々な生活習慣病に対して、脂質に関する新しい概念に基づいて動物モデルを作成、病態メカニズムを解明し、予防法・治療法に繋げるオリジナリティの高い研究に力を入れています。

図：生活習慣病の新しい概念：脂質の量と質

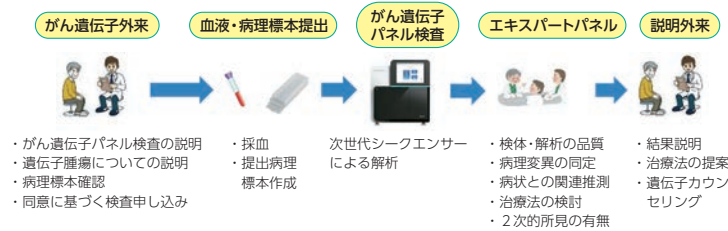
独自の脂質代謝研究から肥満、糖尿病、高脂血症、動脈硬化、認知症のメカニズム解明と新しい治療法の開発を目指しています。臓器や細胞内の脂質の量を調整する遺伝子の転写因子、脂肪酸の質を制御する酵素、栄養状態を感知するセンサーを発見しました。これら因子のエネルギー代謝の制御メカニズムと生活習慣病との関連を解明し、新しい治療法に繋がります。新しいバイオロジーが潜んでいます。



● 世界へ— つくばの研究ネットワーク

開学以来、医局講座制を廃止しているため、歴史的に学問分野にとらわれない多彩な共同研究が行われています。基礎医学や社会医学との共同研究はもちろん、体育科学と融合したスポーツ医学研究は、医学と体育の双方を持つ国内唯一の本学ならではのものです。また、研究学園都市つくばには医学以外の研究施設が多く、グローバリゼーションの流れの中で、宇宙医学、環境医学、国際医学協力など、広い視野にたつ学際的研究が展開されています。

図：筑波大学附属病院におけるがんゲノム医療の流れ

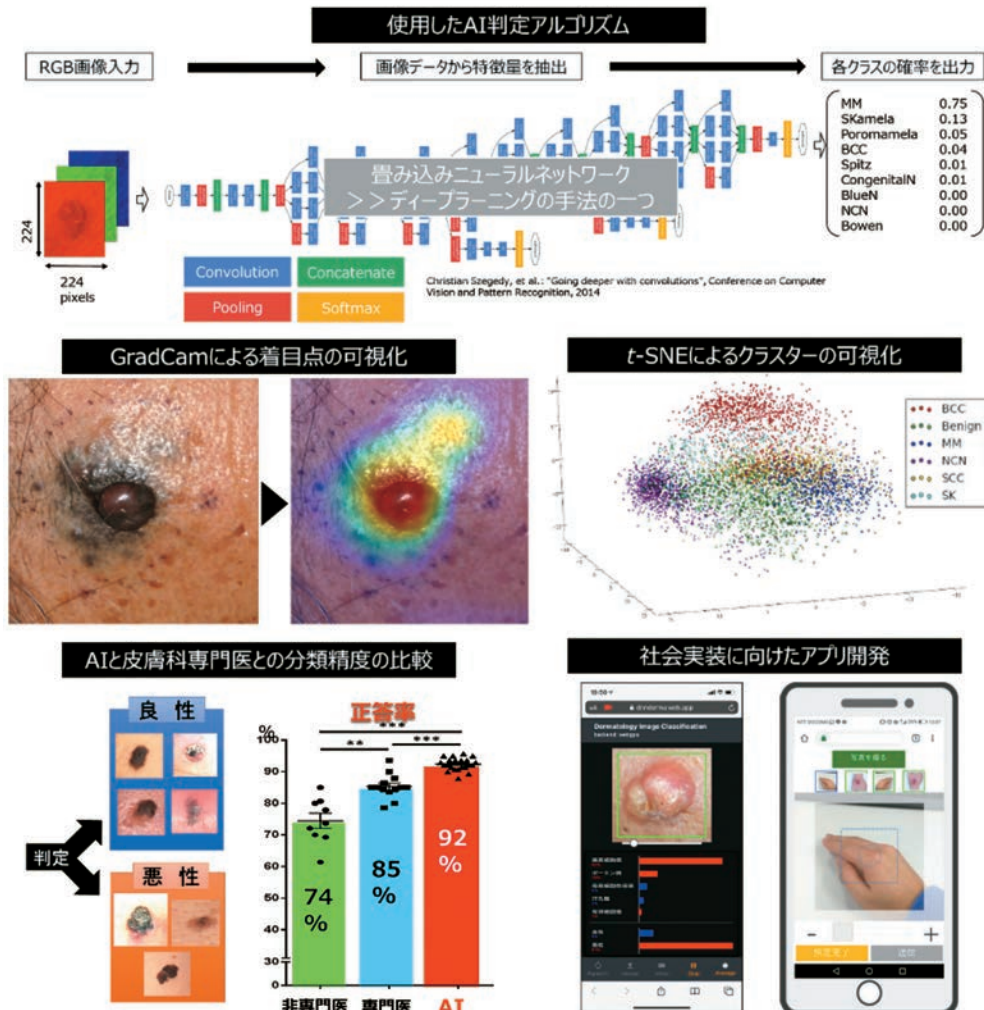


● 高度先進医療の場— 筑波大学附属病院

臨床医学分野における活発な研究活動は、附属病院における高度な診療に反映されています。研究を支える多数の教員は、学生や研修医の教育にあたるとともに、地域医療への貢献および高度先進医療の推進をめざして、診療にも従事しています。また、「つくば臨床医学研究開発機構(T-CReDO)」が中心となり、筑波大学および周辺研究施設で得られた研究成果を、より迅速かつ効率的に臨床の場に還元する橋渡し研究(トランスレーショナル・リサーチ)に取り組んでいます。

図：画像による皮膚腫瘍 AI 診断システム

人工知能(AI)の分野はこの数年で劇的な進歩を遂げています。皮膚科グループは2016年からこのCNNを用いた皮膚腫瘍のAI診断システムの研究を行っています。現在はこのAI判定器を使ったアプリ開発を行っており、社会実装に向けて研究を行っています。



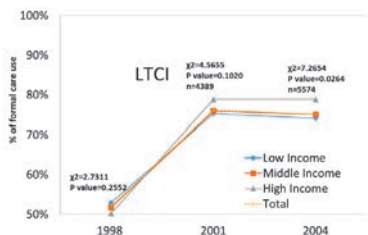
保管されている皮膚腫瘍の画像約6,500枚を用いて、図にあるようにCNNを用いたAIを学習させて判定器を作りました。CNNは従来の機械学習と違い、途中でのようなプロセスを経ているかが分からない(ブラックボックス)ことが特徴ではありますが、画像のどの部分に着目しているかを可視化する技術も最近出てきています(図中のGrandCamやt-SNEなど)。この判定器の性能を評価するため、皮膚腫瘍の画像を分類するテストを医師とAIでその正答率を比較したところ、AIの方が皮膚科専門医より正確に判定できることが分かりました(図下・左)。

臨床医学域における研究

社会医学は、主として社会や人間の集団を対象とする研究分野です。疾病の予防と健康管理、公害や環境問題、保健医療政策など、様々なテーマを取りあげ、研究成果を社会に還元して人類全体の健康に貢献しています。社会医学の研究が充実していることも筑波大学の特徴のひとつです。

●ヘルスサービスリサーチ

医療（保健・看護・福祉を含む）サービスの質を、Structure (or Input)、Process、Outcome の視点から、包括的・科学的に評価・分析し、医療分野だけでなく、政策学、法学、経済学、社会学、人類学等の学際的視点から考察し、その成果を国内外に発信しています。医療から介護・福祉を一連のサービスとしてとらえ、実証データに基づく研究成果を通じて、生活と調和した質の高いサービス提供の実現を促進することを目的としています。近年では医療と介護のビッグデータを用いることによって、介護負担や緩和ケア医療、地域医療、医療費・介護費、医療・介護サービスの評価などについての様々な研究成果を報告しています。また、つくば市と医療・介護分野でのデータ分析に関する覚書を締結しており、筑波大学でのデータ分析による研究成果をつくば市の効率的な医療と介護政策に活かす取り組みも行っています。



介護保険制度により介護サービスの利用は特に高所得者において増加
低所得者対策の重要性を提言

Tamiya N, Noguchi H et al. Lancet. 2011

写真上：Asia-Pacific Economic Cooperationで、地球規模の課題である高齢化社会の在り方について、日本の介護保険に関する研究成果（Lancet 2011 等）をもとに各国の代表者と議論

●健康情報の解析・評価

地域での実践的なフィールドワークとして、環境や生活様式の変化に伴う生体反応や、疾病構造の変化をいち早くとらえ、それを予防する研究があげられます。統計学や情報科学（Information Technology）を用いた解析や評価を行い、疾病の原因探究や疾病予防・健康管理・健康増進に役立っています。

●国際共同研究—高齢化社会に向けて

日本とは環境や生活様式が異なる国々との様々な比較研究が進められています。未来の日本人が健康で長生きできるよう、生活習慣病、老人病の原因を社会の中に探り当て、それを取り除こうとする包括的な予防研究がなされているわけです。今日の日本人の長寿や、老人保健法、健康増進法の制定には、このような研究が大きな役割を果たしてきました。

●社会生活の人権と安全を守る

法医学では、医学を法的問題の解決に応用するために、社会的実践として変死体の解剖を行い、死因を病理学的・中毒学的方法等で解明しています。また、個人識別や犯罪捜査のためのDNA型検出法や、薬毒物の測定法の開発、中毒のメカニズムについても研究し、より良い社会の維持や治安のために大きく貢献しています。

●メンタルヘルスと社会

現代社会では、児童や老人の虐待、ドメスティック・バイオレンス、アルコール・薬物依存、自殺や犯罪を始めとする逸脱行為など、メンタルヘルスと密接に関係する様々な現象が発生しています。これらの現象の実態と原因を科学的手法で解明し、予防や治療のための方法を開発しています。

●環境問題に取り組む

アジア地域で特に問題視されている井戸水からの慢性ヒ素曝露による中毒症状や世界的に深刻な問題である大気中微小粒子（PM2.5）曝露によって生じる各種疾患を分子レベルで研究しています。また、このような環境汚染問題に対処するために、世界各国と共同して研究に取り組んでいます。

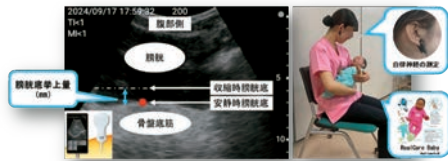
さらに、地球温暖化による疾病負荷に関する研究をWHOと共同で行っています。

茨城県神栖市における有機ヒ素による健康被害の疫学的調査を環境省の依頼により行っています。

看護・健康科学域における研究

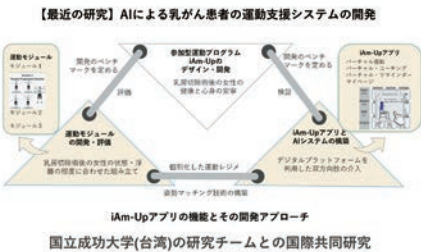
● 看護工学・ウィメンズヘルス看護学

月経周期に伴う心身の不調は扁桃体の過剰な活動に起因し、感情や身体反応に影響を及ぼすとされています。我々は自律神経の変化などの生理学的指標からストレス反応を捉え、心身の状態を客観的に可視化する技術の開発に取り組んでいます。また、加齢や妊娠・出産に伴う骨盤底機能の変化をエコーで可視化し、尿失禁予防やセルフケア支援にも活用しています。このような看護・医学・工学・理学の学際的な連携により、女性の変調を多角的に評価し、日常生活で活用可能なヘルスケア支援システムを構築することでライフサイクル全体にわたる女性の健康支援に貢献することを目指します。



● がん看護学・ケアシステム

がん看護学・ケアシステム研究領域では、がんの予防から治療後のサバイバーシップ、終末期ケアに至るまで、多様ながん看護の課題に取り組んでいます。また、ビッグデータを活用した地域医療・介護分野のケアシステムに関する研究も専門としています。最近では、地域で患者や家族、医療関係者らが使用できるAIシステムの開発を進めており、今後も医工連携や国際共同研究を推進し、看護やケアシステムの質向上を目指していきます。



● 国際発達ケア・発達支援看護学

当研究室 (<https://shouni-kazoku.jp/>) で取り組んでいる主な研究は、以下の通りです。

- ・ 遠隔診療やリモートでのケア提供に関する実態調査ならびに実装研究
- ・ 慢性疾患とともに生きる小児のQOLに関する研究
- ・ 慢性疾患とともに生きる小児と支える家族に関する研究
- ・ 子どもへの psychological preparation や distraction に関する研究
- ・ 小児がん患者と家族の意思決定や復学支援に関する研究
- ・ 医療的ケア児の生活や養育者、家族に関する研究
- ・ きょうだい児に関する研究
- ・ ケアラー研究
- ・ 小児 (NICU, GCU, PICU, 幼児、学童、思春期) 病棟における望ましい看護のあり方に関する研究



● 公衆衛生看護学

すべての人々の Well-being を実現する社会をめざし、人々の生活・健康を取り巻く社会的課題に取り組んでいます。主な研究テーマは、慢性疾患の地域療養支援やシステムの評価、たばこの卒煙・防煙活動、HPVワクチンの接種促進、がん検診等の通知改善、過疎・島しょ地域のケアシステム、災害時支援専門職の健康、社会的孤立の予防、プラネタリー・ヘルス

教育等、ナッジ(行動変容理論)を取り入れたプログラム開発やエビデンスに基づく政策提言にも力を入れています。大学院生の研究も多様で、労働者や事業場、学校を対象とした研究、ジェンダーや子育て、介護に関するテーマにも取り組み、国際共同研究も行っています。



● グローバルヘルス看護学

本研究室は、身体と精神、病院と地域、日本と世界といった従来の看護領域の境界を超えて、グローバルな視点から看護を科学し、新たな実践モデルを探究しています。在留外国人糖尿病患者の増加に対応するため、アジア諸国からの患者の療養ニーズを言語・文化・経済的背景から解明し、効果的な自己管理支援ツールの開発を進めています。また、糖尿病と歯周病の関連性に注目し、看護師・歯科衛生士向けの口腔管理支援ガイドと教育プログラムを開発し、医科歯科連携による包括的健康管理の実現に取り組んでいます。さらに、統合失調症者のストレングスに着目した看護教育プログラムを開発し、医療チーム全体のリカバリー支援能力向上により、患者が新たな人生の価値を見出せる支援体制構築を目指しています。



● 療養調整看護学

人生に寄り添うケアを、研究から一子どもから高齢者まで、すべての人の“これから”のために。当研究室では、小児期発症疾患をもつ方の成人移行支援、特に成人先天性心疾患の診療体制や専門医制度、教育支援のあり方を中心に研究しています。さらに、認知症のある方とその家族への支援、重症患者や終末期患者への緩和ケアなど、人生のさまざまな局面に関わる課題解決に取り組んでいます。全国実態調査、自然言語処理を含む質的研究、ビッグデータ研究や介入研究を実施し、患者さんや市民と共に課題を考える「PPI (患者・市民参画)」にも力を入れています。病とともに生きる人々の声に耳を傾け、医師や看護師、多職種、当事者、企業と連携しながら、より良いケアの形を探る。それが私たちの目指す研究です。



FAQ

共通

Q1 他学群・他学類の授業は受講できますか？

時間的に可能な限り、受講できます。ただし、受講を可とする学群、学類や学年を定めている科目もあります。なお、筑波大学は東京ドーム55個分の広大なキャンパスを持つので、移動に時間が取られる場合があり、注意が必要です。

Q2 単位について教えてください。

単位とは、授業科目の修得に必要な学修量を計る基準となるものです。大学で開講している授業科目にはそれぞれ単位数が定められ、この単位を修得するためには、所定の時間を学修し、試験その他の方法により合格と判定されなければなりません。卒業の判定は、この単位数に基づき決定されます。卒業に必要な単位は、医学類では6年間で199単位、看護学類では4年間で124単位(保健師コースは137単位)、医療科学類では4年間で124単位となっており、在学期間内で余裕を持って修得できるようにカリキュラムが作られています。

Q3 ケア・コロキウムとは何ですか？

この科目はチーム医療、多職種連携を学ぶことを目的とした特徴的なものとなっています。医学群の3学類の学生だけではなく、東京理科大学薬学部の学生との合同プログラムとなっており、実際のケースのシナリオについて、多職種専攻学生で構成されたグループで討論をする体験から、幅広い視点でチーム医療を学ぶことができます。



～よりよいケアを提供するために～
ケア・コロキウムにおける3学類及び
東京理科大学薬学部の学生の討論

Q4 サークル活動やアルバイトは可能ですか？

講義から学べない貴重な体験を、サークル活動から得ることができます。様々な文化系/体育系・全学系/医学系のサークルがあり、学生の多くは、サークル活動と学業を両立させています。アルバイトや地域のボランティア活動も積極的に行っています。

医学類

Q1 筑波大学医学類の特徴のある教育方針や設備について教えてください。

将来、臨床医、医学研究者、医療行政等の先端で広く活躍できる、日本のリーダーとなるべき人材の育成を目的としています。問題を抽出し科学的に考え、患者の立場に立てる臨床医、また癌や脳の疾患、感染症などの病気の機序を解明し臨床現場にフィードバックすることを目的とした基礎医学研究を推進する研究者、社会医学に貢献できる医師の養成を目指し、PBLチュートリアル、クリニカル・クラークシップを中心にカリキュラムが組まれているのが特徴です。PBLチュートリアルは、少人数教育で、課題について学生が議論、調査して解決していきます。また、医学教育をコーディネートする部署(PCME)は、教育を科学的に推進するユニークな部門であり、教育の推進を担っています。設備は、教育効果をあげるために適宜刷新しており、医学教育としては日本のトップレベルであると自負しています。



スキルスラボでの実習

Q2 研究に興味があるのですが、学生時代から医学研究に関わることができますか？

入学直後の時期に研究室訪問があり、医学研究分野で活躍する教員の研究の場をみる機会があります。研究に関心のある学生は「研究室演習」を選択し、放課後や長期休暇を活用して、興味のある分野の研究室で教員のアドバイスを受けながら、最先端の医学研究に参加することができます。さらに、5年次後半以降、医学研究者養成コースである「新医学専攻」を選択して、将来へつなげる道が用意されており、今まで研究成果を論文としてまとめた学生もいます。



医学類・研究室演習



看護学類・成人看護学実習

看護学類

Q1 看護学類では具体的にどのような勉強をしているのですか？

看護に必要な知識は、人間の身体の構造や機能、病気に関すること、様々な状況での心理を理解する理論や方法、看護に関することなど幅広く学びます。また直接医療施設や保健福祉施設に出向いて実習も行います。また、専門職として一般教養も必要なので、筑波大学では総合大学のメリットを活かして、様々な分野の科目を学ぶこともできます。



看護学類・小児看護学実習

Q2 他大学と比べて筑波大学看護学類の特徴的なものは何ですか？

本学類は、科学的根拠に基づいた看護学の確立を目指しています。講座制がないので、教員一人一人がバラエティに富んだ研究や教育に取り組めるということが他大学にない特徴です。学生にとっては特定の看護論に偏ることなく幅広い視野で学習することができます。グループワークも多いので、主体的な学習能力が養成されますし、そのために、専門性の高い、より高度な学問を推進するための大学院も設置しています。

Q3 資格取得について教えてください。

看護師国家試験受験資格が得られます。保健師国家試験受験資格および養護教諭一種免許状の取得は、所定の科目を修得した場合に得られます。なお、保健師コースおよび養護教諭コースは選択(選抜)制で人数制限があります。保健師国家試験合格後に申請すれば養護教諭二種免許状が授与されます。

Q4 実習について教えてください。

附属病院や学外の様々な医療・保健に関連した施設で行う「臨地実習」があります。2年次の基礎看護学実習・高齢者看護学実習にはじまり、3、4年次では専門領域実習(臨床看護学、ウィメンズ看護学、小児看護学、精神看護学、地域・在宅看護学)へと、その質、量ともに充実していきます。さらに4年次では「応用看護学実習」として学生自身の関心や志向に応じた専門領域を選択して実習を行い、知識や技術をさらに深めることができます。また、保健師・養護教諭のコースでは、専門領域の実習が加わります。

医療科学類

Q1 医療科学主専攻と国際医療科学主専攻の違いを教えてください。

医療科学主専攻では、医療施設で臨床検査に携わる臨床検査技師や検査技術の研究開発を目指した企業などで活躍できる人材を育成します。検査技術を中心に医療分野での専門知識と技能、臨床・チームワーク能力を養う授業・実習を中心とした教育を提供します。

国際医療科学主専攻では医科学領域のグローバル企業、研究所などで世界的に活躍し、医学研究を通じて、国際社会に貢献できる人材を育成します。留学生と共に英語の授業・実習により学び、医科学に関する専門知識とコミュニケーション力、問題解決力を国際性の日常化の中で身につけていく教育を提供します。

Q2 卒業研究について教えてください。

4年次(国際医療科学主専攻では3,4年次)に行います。医学の50以上の研究グループから提示されたテーマの中から1人ひとつずつ選んで行います。4年次秋学期開始前には卒業研究発表会があり、卒業研究論文集としてまとめられます。

Q3 大学院に進学した場合、どのような研究ができるのか詳しく教えてください。

人間総合科学学術院人間総合科学研究群のフロンティア医科学学位プログラムに進学した場合には、医科学、医学物理、橋渡し・レギュラトリーサイエンスに分かれて研究がすすめられます。それぞれのコースに、多くの研究室が所属しており、その中から自分の興味がある分野の研究室で、テーマに沿って研究指導を受けます。最終的には、発表会や論文作成まで丁寧に指導しています。フロンティア医科学学位プログラムが修了したら、社会人として活躍することも、大学院博士課程に進むこともできます。



医療科学類・心エコー実習



医療科学類・臨床薬理学実習

入学試験案内 2027年度入学試験の概要（予定）

下記は、医学群で実施する主な入学試験概要（予定）です。

詳細は、必ず「2027年度入学者選抜要項」（7月下旬公表予定）及び「2027年度学生募集要項」（9月下旬公表予定）を参照してください。

なお、今後の社会状況等によっては、日程・実施方法等を変更する場合があります。本学ホームページ（大学入試情報サイト）でご確認ください。



推薦入試

学群・学類名（募集人員）		日程	2026年11月26日（木）	2026年11月27日（金）
医学群	医学類	44名	小論文・適性試験(1)	適性試験(2)
	医学類地域枠	(注1)		
	看護学類	25名	小論文	個別面接
	医療科学類	10名	小論文	個別面接

※推薦入試で不合格になった場合でも、あらかじめ個別学力検査等を受験することができます。

(注1) 医学類地域枠（茨城県内対象）については、国との協議によって定員が確定次第、選抜方法等と併せ、本学ホームページにて公表します。

個別学力検査等（前期日程）

学群・学類名（募集人員）	学力検査等の区分・日程	大学入学共通テスト		個別学力検査等
		教科		教科・科目名等
医学群	医学類 前期 44名 地域枠(注2)	前期 2027年 2月25日・26日	国語、地歴、公民、数学、理科、 外国語、情報	数学、理科（物理、化学、生物から2科目選択）、英語、 適性試験(1)(2)
	看護学類 前期 37名	前期 2027年 2月25日・26日	国語、地歴、公民、数学、理科、 外国語、情報	国語又は理科（物理、化学、生物から1科目選択）、外国語、 個別面接
	医療科学類 前期 12名	前期 2027年 2月25日・26日	国語、地歴、公民、数学、理科、 外国語、情報	数学、理科（物理、化学、生物から2科目選択）、英語、 個別面接

なお、前期日程に「総合選抜」を導入しています。「総合選抜」で入学した学生は、1年次は総合学域群に所属し、2年次から学類へ所属します。（医学類5名、看護学類2名、医療科学類10名）

総合学域群に関する最新情報はWebサイトでチェックしてください。

(注2) 医学類地域枠（全国対象、茨城県内対象）については、国との協議によって定員が確定次第、選抜方法等と併せ、本学ホームページにて公表します。



学群編入学

学群・学類名（募集人員）		日程	2026年7月11日（土）	2026年7月12日（日）
医学群	医学類	5名	学力試験(1)(2) 適性試験(1)	適性試験(2)

※編入学の年次は第2年次とする。

入試実施後の入試問題について

「筑波大学入試情報サイト」から過去3年分の入試問題が閲覧できます。（なお、第三者からの引用箇所等についてはぼかし処理を施しています。）

※筑波大学入試情報サイト
<https://ac.tsukuba.ac.jp>

問い合わせ先

〒305-8577
茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学教育推進部入試課
TEL : 029-853-6007
E-mail : gm.nyusika@un.tsukuba.ac.jp



筑波大学 医学群

医学類・看護学類・医療科学類

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1

医学医療エリア支援室 学群教務

E-mail: igaku-kyoumu@un.tsukuba.ac.jp

<https://www.md.tsukuba.ac.jp/igakugun/>

School of
Medicine and
Health Sciences